

電子俳句ノート

歳時記ひらくともなくまた一年



絵と俳句 おじやらりか

◆はじめに

ホームページ上に、「連れ句の掲示板」というのを作り、お友達と毎日連れ句を作っているのですが、一年で二千句にもなってしまうました。「連れ句」という形で、前の方が詠んだ俳句や、その中の言葉から連想した、次の俳句を作ることで、毎日自然に俳句を作り進んでゆくことができます。

今は、到底、ゆっくり推敲している時間も無いのですが、掲示板に置いておくと、古い俳句がどんどん消えてしまうので、一年に一度、電子俳句ノートとしてまとめておこうと思います。

句集というよりは、毎日の俳句日記のようなものだと思います。下さい。

そのうちに、「オジヤラ選句集」などというのを作るかもしれませんが、作らないかもしれません。

私の場合、このように電子本にまとめて、ネット上に置いておくというのが、情報が迷子にならない最適な管理手段なのです。

読んで頂くほどの句集でもありませんが、「この程度でも、構わないんだ」という気楽さはあると思います。

俳句の楽しみというものは、個人の楽しみであり、何者も邪魔することはできません。

多くの方が、句集作りに親しんでいただけると良いと考え、こちらの俳句ノートも、公開することにしました。

この俳句ノートは、ワードとアクロバットで作られています。PDFファイルになっていると、紙の冊子に印刷するとしても安価に実現できるのです。

身近なソフトで、カンタンに句集を作ることができる時代になりました。

多くの方が、俳句に親しみ、また、それを俳句集などにまとめ、愛好の輪を広げる楽しみにまで発展すると良いと思っています。

こちらに掲載した俳句は、推敲が十分で無い作品も多数ありますが、私なりに、当時の記憶が蘇ってきて、日記としての役割は果たしています。

句集の掲載句を先生に選んでもらうのが常識ということすら知らなかった私ですが、自分の俳句集なのであれば、稚拙であっても、思い出深い俳句を落とすべきではありません。

イロイロな考え方がありますが、誰のための俳句かをよく考え、ご自分の思い出が詰まった句集作りを目指してくださる方が増えると良いと思います。

◆◆ もくじ ◆◆

◆ この俳句ノートの構成

連れ句って何？

連れ句掲示板

連れ句しようぜ

連れ句ヒッチハイク

連れ句催促軒

◆ おわりに

◆この俳句ノートの構成

連れ句の掲示板というのは、現在三カ所あり、毎日連れ句が詠まれ続けています。

日付順というばかりでなく、掲示板ごとに分けておくほうが、今後の整理もしやすいと考えて、とりあえず、掲示板ごとの、古い日付順に並べることにしました。

今後、整理を進めるときには、全てを集約し、日付でソートして、(もしくは、内容ごとに)分類するという方法を取ると思いますが、どうなるかはまだ考えていません。多くの自選の俳句集が、時系列になっていることを考えると、日付順に並べておくというのが、将来、内容の整理をする場合にも、最も効率が良いと今は考えています。

とりあえず、日付を入れておけば、いつ位の話なのかとか、どんな話が前後にあったのかという話も思い出すことができる場合も多いので、日付も入れて、「俳句ノート」という形にまとめました。

愛好の方が句集などをまとめる前段階での、作品の整理の一案として、ご参考になれば幸いです。

連れ句掲示板には、毎日四五人程度がやってきて、句を残してゆく感じですが、今回は、私の俳句ノートです。で、私の俳句だけを抜き出しています。(数が大量にあり、もしかしたら人のが混じっているかもしれないませんが、悪意はありません。その場合はゴメンナサイ)

インターネットで俳句を作られる方は、アチコチに 俳

句がバラバラに散らばって、紛失してしまうことも多いと思います。ご自分の俳句ですから、責任を持って、きちんとまとめてあげることが大切だと思います。

ネット上で沢山俳句を作られている方は、こまめに記録し、定期的に、きちんとした形で整理し、将来公開する予定で記帳をしておく、俳句の楽しみが一層増すものとは信じています。

このノートは、一ページ十句ずつにまとまっていますので、ページ数×一〇句、マイナス表紙の枚数で、概ねの俳句の数が計算できて便利です。

連れ句を教えてください。つた、ゆ様、いつも、一緒に連れ句をしてくださる、白兔様、YAN様、ケンタリ様、時々遊びに来てくださる、風様、みやび様、比呂様、花様、わこ様、晶様、からす様、痩せ蛙様、鈴様、居士様、名無し様、その他の皆様、ありがとうございます。

また、明日からも、よろしく願います。

◆ 連れ句って何？



ここまで読んで、「連れ句って何？」と思う方がいらつしやるかもしれません。

私は、ネットのお友達の「ゆ」さんに、「連れ句とは、ツレションみたいに、前の人の句につられて、自分も俳句を詠む事だ」と教えて頂きました。

旧来からの、「連句」というのは口うるさいルールがあるみたいですけど、細かいことを気にしていたら、俳句など作れなくなってしまいます。

「連れ句」は「連句」とは違います。

細かいことに囚われず、前の句から自分が思い描いた文や映像を、自分の俳句として作り直す。そんな作業だと思っただければ良いと思います。

初心者であれば、連れ句のコツは、前の句を受けるといふよりも、前の方が使った語句を一個程度使います。自分の俳句を作るといふ訓練だと思ってください。中上級の方は、前の方の句を受けて、一ひねりした次の句を作るといふ風に、自分の句作のスキルアップを狙います。

気軽に、一種の、連想ゲームを俳句で行うと考えれば、それで良いと思います。あまりきまりはないみたいです。毎日、連れ句を繰り返し返すことによつて、どんなお題でも、

短時間で俳句が作れるようになってゆきます。

俳句を作る上で求められる能力は、

何を見ても、句が短時間で作れること。

自分で推敲し、より優れた俳句に昇華させること。

この二つです。

そのために必要な訓練は、

毎日俳句を作る習慣

俳句を記録してゆくこと

だと私は考えます。

その後にするべきことは、

記録した俳句を見直して、推敲する。

自分で優れた俳句、思い出深い俳句を抜き出す

句集にまとめる

という作業になります。

毎日作り、記録さえしておけば、時間のあるときに、ゆつくり推敲し、もっと良い句に練り直すことが出来るのです。

連れ句は、前の方の句につられて読むだけですから、苦もなく、俳句を作れるようになってゆきます。

連れ句掲示板

この連れ句の掲示板は、インターネットで配布された、「連想ゲーム掲示板 マジカルバナナ」さんのプログラムを元に、私が、俳句バージョンにスクリプトを変更して、再配布しています。

連れ句しようぜ! - Mozilla Firefox

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 移動(G) ブックマーク(B) ツール(T) ヘルプ(H)

http://ojara.cside21.com/monkey/monkey.cgi? 移動

015118

連れ句しようぜ!

『イカハイ』に戻る | 連れ句しようぜ!って何なのさあ | マジ当たる今日のハイク運勢 | おじゃら用



- 前の方が残したこの俳句から、あなたが連想した新しい俳句をインプットしてね。
- 『連れ句する』ボタンを押すと今まで投句された連れ句を、全て見ることができちゃいます。
- タグは不可、全角200文字を超えると投稿できません。
- 無記名でもいいですけど、できれば、お名前(ニックネーム)、句の横に入れてください。

犬とつながれり飼い主の朝 オジャラ で連想されたアナタの俳句

連れ句する | キャンセル

完了

スク립トの変更点は、入力可能文字数を増やしたことと、文字を大きくした点、ログの保存数を1万句まで増やしたこと、「今日の占い」の内容を少し俳句向けに改定したことです。



前の俳句が、赤い文字ででてきますので、下の枠の中に、赤い文字の俳句を見て、アナタの俳句を入力します。俳句の入力時に、俳句の横には、スペースを入れて、ご自分の俳号も入れることになっていきます。(俳句を詠む方であれば、自分の俳句に責任をもつのは当然のことですから、ほとんどの方は名前を入れていきます。)

連れ句するボタンを押すと、前の人を作った連れ句を、全部見ることが出来るような仕組みです。

トップページ上では前の人の残した句、一つしか見れないのですが、「連れ句」すると、それ以外の方の句もよめるといいう、単純な構造です。

前の方の句を読むのも勉強になります。(というよりは、ユーモアに溢れた句が多く、つられて読まれた俳句の流れを読むという、楽しみの方が大きいのですが。)

「連れ句」掲示板のスク립トは、無料で公開していますので、ホームページをお持ちの方であれば、どなたでもお使いいただけます。取り付けるのが難しい場合には、パソコンが得意な方に頼んでつけてもらうと良いと思います。(自分のHPにフリーの掲示板をつけられる人であれば、そんなに難しくはありません。)

~~*~*~*~*~*~*~*~*

俳句とは、「瞬間を切り取る」「感情や感動を表現する」それを、「短い言葉で句としてまとめる」ということである。その際には、「直接的な表現を避ける。」「俳(おもしろおかしなこと)」「ありきたりではない視点」「新しさ」も入れ込んで、短文から俳句に昇華させてゆく。

私に俳句を教えてくださいとくださった、「笹心太」さんは、「俳句はそういう文芸だ」と教えて下さいました。ありがとうございました。

基本的な作り方を学んだ後、本当に、自由に作れるようになれたのは、俳句を一人で作るようになってからだだと思います。

私の俳句は、まだ、それほどの俳句でもありません。

この先も、たいした俳句を詠める気もしませんが、堅苦しい話無しに、日々を俳句にするという楽しさ、気軽な俳句を作るという楽しさ、俳句のお友達と、そういつた価値観や日常を交換するという楽しさも、俳句の楽しみの一つなのだと思いきはじめています。

俳句を作るのであれば、自分の俳句でなければなりません。

入選のための俳句や、人に認められようとする俳句なのだとなれば、それは、その時点でアナタの俳句ではなく、他人や、先生や句会主催者のための俳句なのです。

そんな俳句では、出来上がった句が可哀相です。

自分の俳句を作る。

その研鑽のための句会でなければならぬし、自分の思いが詰まった句集でなければなりません。

句集の俳句は、自分で選ばなければなりません。もし、どの句が良いのかの判断が出来ないのであれば、まず、自分で、俳句の良し悪しが、判断ができるようになる力を身につけるといふことが必要だと私は考えます。



◆ 連れ句しようぜ

二〇〇四年二月二十七日から
二〇〇四年十二月三十一日



犬張子
狸被犬

手をつなぐネット連れ句 12/31

おみくじとおまもりについて開運パツク千五百円 2/31

ドンペリ入りますとイケメンのウイנק 12/30

夜叉顔の女のストーリー 12/29

鬼の面打つ仏顔 12/28

空振りの夕焼け 12/28

狭さをやりくりして大作 12/25

学力低下ゆとり教育の未来 12/24

女は化粧で美しくなる勘違い 12/23

雨降ってセメント流れる 12/22

- 記憶のジグソーパズル終わりもせず 12/20
- 頂いた食器の古い新入り 12/20
- 民具に潜む日本の芸術 12/18
- プール派の笑えぬ溺暦 12/17
- 急流にさらわれて命がけで岸まで 12/17
- 藍模様の皿、今日から食卓へ 12/17
- 人物の深みに沈むケンタリ 12/16
- 自画像は描かぬ鏡の無いあとりえ 12/16
- 似ていないので似顔絵は売れず 12/15
- 天狗と天使の出会い 12/15

天狗の下駄はいつも曇り 12/14

一本歯のゲタの勢い 12/14

値上げでもヴィトン圧勝の春 12/13

終電のラッシュアワー 12/13

一献 年末年始を飲み込む 12/12

師走に引越し蕎麦が配られてお茶 12/12

酒飲みすぎたりせず師走の街 12/11

連れ句しようぜの小春 12/11

社長室の裸婦の愛人 12/09

影付けに苦戦のドス黒いヌード 12/09

スコップの影短足長く見せる 12/09

夕空が影作って急ぎ足 12/08

薄桃色日に透けて揺れる 12/08

梅が咲きさふな冬 12/07

スッピン人生 口紅一本勝負 12/07

白壁の左官芸術 12/07

差し出す山吹も無し 12/06

茶色瓶のホレ薬を飲ませている 12/05

コンクリ植え込みにハートストーン 12/05

生傷たえぬ指先に力を入れる 12/04

- ハートストーンが傷が身代わり 12/04
- ハートの石が結ぶ俳句のご縁 12/03
- 兎の友達はハートストーンを集める女 12/02
- いけないルージュマジックが追いかけてくる 12/01
- 葉に包まれてぶらさがってる 12/01
- 読み終わらない本の積読 11/30
- 天狗と傾けるワイングラス 11/29
- バリ島で飲む純米吟醸 11/29
- 穴のあいた杯が回される狂った宴 11/28
- 絞りたてジュースの喉ごしを見つめる 11/28

- 女王蜂の口移しを頂く 11/27
- 扉を開けると運が待っていた 11/26
- 最近は蜂にもなるオジヤラ天使 11/26
- トツペンパラリのプと清水の舞台 11/25
- お化け煙突の二本が四本 11/25
- 先達の俳句あふれ出る映像 11/24
- お国のために前へ 11/23
- 鼻毛の男のあくび 11/23
- 金魚の浮世絵がキセルからあふく 11/22
- フィーバーが来てヴィトンのサイフ 11/22

- アンティークビーズの小銭色の金魚模様 11/22
- 笑い顔の絵手紙がポストに 11/21
- 人妻の待つパソコンの中 11/21
- 嫌がらせも、困った質問もネット名物 11/20
- ネットの中を覗き見する名無し 11/19
- 熱湯の茶飲みとネット 11/19
- 湯さましで入れる茶の香り 11/19
- ポツと湯気が飛び出てくる夜 11/18
- 青い屋根を目指す熊 11/17
- カワの塩焼き並んでポン酒 11/16

- 霞食つてもおなかがグー 11/14
- 戻る年金ももう無し 11/13
- 魔が刺す一瞬の薄笑い 11/13
- 戻る失業保険ももう無し 11/13
- 夢の原石磨いてみる 11/12
- ゴミの島が夢と名を変えた空 11/12
- 見回して食べたいモノも無く 11/10
- あと二年もある四十代 11/10
- ワン君ハミガキ売り場の飼い主 11/09
- そしらぬ顔の子猫の狂宴 11/08

猫をヒモで釣りながら夕餉 11/07

自分の名を好きになり開運 11/07

五右衛門風呂も寒い季節 11/06

歴史の火の粉消えることなく 11/06

火の粉にほどよく焼けた兎である 11/06

鍋の湯気箸が触れ合う 11/05

肉じゃがでイチコロ 11/04

ホクホクした新じゃがの信者 11/03

ハーフバターの新ジャガにひとつまみ 11/02

返事の早い人の頭の良さ 10/31

角さんの四角い顔が笑う 10/31

土砂の道を切り開いてゆく 10/30

晴れた一日の一時帰宅 10/29

猫と囲炉裏端 10/28

暴れる兎 縄で吊るしている 10/27

薄開きの目のお顔を眺めている 10/27

網タイツにブーツの女と待ち合わせる 10/26

太った女の美しさよ 10/26

ほえてばかりのまた一日 10/25

犬と主がポツリポツリ 10/25

うたたね猫のあくびにつられてる 10/24

野良猫ポカポカ台風一過 10/24

床の間鎮座の開かずの貯金箱 10/23

小さな積み重ねの一枚 10/22

どんなに低くてもありがたいあとりえ 10/22

雨降って水浸し 10/21

豪雨あとりえを襲う爪あと 10/20

目じりの垂れた子猫のまんまる 10/20

テーブルの秋を囲む 10/20

菜の花御飯はんなりと春 10/19

蛇の道はへび、人の道は？ 10/18

消え入るような道乗り越えて 10/18

試行錯誤の中に道 10/18

月と一体の猫が笑う 10/17

たった一円されど一円 10/15

銅貨磨いて版画にしてみる 10/15

十円玉重い大道芸人のポッケ 10/14

一円の積み重ね 10/14

結局拾わずに一円玉 10/13

一円ばかりの貯金箱の夢 10/13

- コンビニレジの募金箱の一円玉 10/13
- 小さい募金箱に小さな夢 10/12
- 赤い羽根誇らしげ 10/12
- そっと新しい羽を広げてみる 10/12
- 心の傷を治してくれる連れ句天使 10/11
- 暴れていた天使がスヤスヤ 10/11
- 目をしばしばさせてパソコンの前 10/10
- チラリと辺りを見回して100円をゲット 10/09
- ふらついた足元に5円玉 10/09
- 大きなコニファー4鉢も盗まれたママ 10/09

- 風呂の眼鏡白く体を伸ばす 10/08
- 体調が少しよくなって朝食 10/08
- 乾杯できる一日の有難さ 10/07
- 生ビール3杯の夕餉 10/06
- 新米の湯気のアツアツ 10/05
- 美味しい夕飯のほのぼの 10/05
- 歯があれば美味しい 10/05
- ハハッと笑い白い歯の美しさ 10/05
- 和筆味わっている 10/04
- 新しい服は買えずに筆を買う 10/04

猫に占領されつつある枕 10/03

猫をつついて息を確認する 10/03

年老いた床板の悲鳴 10/03

猫は犬の鼻面をゆっくり 10/03

鼻先赤い猫の忍び足 10/02

鼻をツヤツヤさせて確認 10/01

風呂の鏡に映る短足 10/01

見たくない体重計の真実 10/01

月の見えないベランダで探してみる 09/30

ニッポンどこへ行く？ 09/30

竜馬の志何処へ 09/30

食うこともままならず満月 09/29

給料の無い生活の秋空 09/29

有難い給料日 09/28

むくんだ顔へこましてみる 09/28

雨にふやけたお月様の横顔 09/28

野菊の薄紫そつと揺れる 09/27

一人の酒の静けさ 09/27

うるめイワシを炙ったり爛したり 09/26

瞳の潤んだ横顔に悩まされる 09/26

若気の愛もどき受けたり別れたり 09/24

取り持った縁の平成事情 09/24

薄いヴェール祝福のベルの中 09/23

夜露 月を閉じ込めている 09/23

帰る場所の無い空 09/22

ルージュの後だけ残して雨 09/22

コーヒー店に取り残された夏 09/21

巾着切りは中野オレオレ大學へ 09/21

古羽織を巾着にしてまた生きる 09/21

時には犬になる笑顔 09/19

怖い顔が笑っている 09/19

青の時代の貧しき食事の語るもの 09/18

色褪せたヒロインポスターの青春 09/18

パツキンのザトウイチを見る 09/17

コインを二枚、区役所まで 09/17

良く生きる快晴 09/16

光と影の女体が浮かんでいる 09/15

シッポまた長くなったね 09/15

背中でごっすりがるが重くなる 09/14

コーヒー店マスターと二人 09/14

- ほっと一息の缶コーヒー 09/13
- 白髪フサフサとケンタリ 09/13
- 伸ばしっぱなしの髪对白髪 09/13
- キーボード彼女の口になる 09/12
- 金のありがたみの絵の具をしぼり出す 09/11
- 地獄まで連れ句しようぜ！ 09/11
- 探せばいない猫の忠信 09/11
- 領土拡大の野心で散歩縞の尻尾 09/11
- 尻尾太くしてカニ歩きの子猫 09/11
- 新しい絵の具新しいシャツに 09/10

- 葡萄が梨の横で青空 09/10
- CDを版画にした鳥が青空 09/09
- 案山子大口であくびの青空 09/09
- パクリと口を開けた案山子とピースサイン 09/09
- 秋がそつとドアを開ける 09/09
- 恥じもなく援交女子中学生の怪 09/08
- 飾り窓の女のストーリー 09/07
- 油膜のかかった窓の抽象画 09/07
- ジープンの絵の具広がってゆく 09/06
- 背広がよれっと赤提灯 09/06

やぶれかぶれでも人生 09/06

ネットの表も裏も裏の裏も 09/05

ほろよいのきみのほほ 09/05

友達イツパイの転校生 09/05

ガラガラポンっで白玉のポケットティッシュ 09/04

飴をほほばるミントのにおい 09/04

ハローウインのようなへソ餅どろぼう 09/04

名月の予行練習は涙目 09/03

駄作の中にも日々精進 09/03

通勤時間句作の満員 09/02

戻れない道の真っ直ぐ 09/02

菜の花昔には戻れない 09/02

もうそろそろ出稼ぎモードの冬 09/01

スツカラカンになって歩いて帰る 09/01

だんだんと母に似る横顔 08/31

制服のニョキリとした足がこいでくる 08/31

みな兄弟のオヤジの競艇熱 08/31

蝶ひらりとあおぞら 08/30

自分の居場所気づけずにいる 08/29

失業中の空を見上げる 08/29

ノートに閉じ込められた青い春 08/29

黄色い水玉の魚が赤をパクリ 08/28

猫の鼻息で目覚める熱帯夜 08/28

母がそっと布団をかけてくれた思い出 08/27

ありがとうの一筆が届く 08/27

ポカリと空が出てきてまたビルに 08/26

またひとつ現場に足跡の丸尻尾 08/26

天竜川を白兔が昇る 08/25

迷子の俳句がごめんね 08/25

シッポくらはいは触らせてくれるズニーちゃん 08/25

きびすをかえしたうさぎのしっぽがまるい 08/25

澄む水の底に君のつま先 08/24

名無し句澄む水の中 08/24

暑気払いのハシゴで夏バテ 08/23

名無しの雨があがる 08/23

豆腐冷たく生姜がピン 08/23

大きな豆腐水に透き通る 08/23

タイガーの蓋をあけて冷えた奴 08/22

自前トマトガブリ 08/22

虫のいるトマトを冷やして 08/22

すすき野の美人ママの招き猫 08/22

小路の小さい花も秋 08/21

踊る風の中に道が見える 08/21

蝉の声もかすれがちな空模様 08/21

魅せられて迷い道 08/21

フランスの青い絵の具の涼しさ 08/20

赤いスイカ暑さを感じてみる 08/20

三匹のタヌキと二匹のワンの幸せ 08/19

ちよつとはみ出たモノがセトモノのタヌキ 08/19

マンボーステップのチラリ 08/19

ワルツをふわりと踊る女の夜 08/19

月影に君を見つける 08/18

最後の線香花火を囲む 08/18

子供の笑顔ピカリ 08/18

青い目の人形が微笑む鏡の中 08/17

もう長いこと青い石の中にいる幸せ 08/17

石の秘められた力あるやなしや 08/17

ハートバードヒラリとおりてきた 08/17

新しい猫に生まれ変わって新盆 08/17

蝉の亡骸そっと土の上へ 08/16

カモメがヒラリ銀色をつかんで空へ 08/16

船の帆先カモメがヒラリ 08/16

オールが無ければ手で漕いでゆく 08/15

流れるままたどり着く、生きている 08/15

頑張った人だけの金メダル 08/15

メダルがひんやりとおもい 08/15

届け応援の声 08/14

聖火に点火されて旗がひらめく 08/14

オリンピックばかり見ているウチのオット 08/14

必ず見つかる 08/14

小ささを知る人の幸せ 08/14

日の丸三枚並べてや、頼むでっ。 08/14

ガンバレニッポン黒帯よ 08/13

蟻も戦ったり働いたり 08/13

猫トイレの掃除オババとなるオジヤラ 08/13

穴を掘っては糞尿す 08/13

万次郎よ、大きいぜ 08/12

掌に乗せる、ふんわりあたたかい 08/12

子猫のあくびを激写 08/12

編立って千二百グラム 08/12

夕刻ビールに迫られる 08/11

白兔の白髪の原因 08/11

こんぺいとうの角を数えて雨の日 08/11

8分の5に安らぐ乙女 08/11

牛乳会社の不祥事も今は昔 08/10

失業にかなり近い画家のあとりえ 08/10

下ばかり見て歩く日々 08/10

ポチポチ歩くハイカーも愉し 08/10

観音様までの石段有難く 08/09

写経し気を引き締める 08/09

- 心の貧しさばかり買い集める 08/09
- 一筋の顔のこわばりに本音 08/08
- 被爆の記憶が溶け出してゆく 08/08
- 花火の燃えかすになった朝 08/08
- 目刺しの貼り絵がギョロリとあぶられる 08/08
- 古い着物ほどいた掛け軸 08/07
- 少し冷たい雨秋のにおい 08/07
- 夕立にまぎれて蝉 08/07
- ステージの上の晴れ姿、テレビで 08/07
- 迫り来る茶羽にキンチョール 08/07

- 蚊に刺されながら黄金の飲み物 08/06
- ビル風ばかりの再開発 08/06
- 『ツ』まづく恋の細道 08/06
- 蔦だらけの家も取り壊し 08/06
- リスのエサの発芽率はグッド 08/05
- 鍋が騒がしい夕暮れの細道 08/05
- ポツリポツリと家波の笑い声 08/05
- とぼとぼ歩く路地裏の石畳 08/05
- サンマの焦げ臭さが丑の日 08/05
- 百均で閑古鳥の文具店 08/04

- 四つある百均の巡回 08/04
- 一桁間違えてレジで仰天 08/04
- 屈託のないミニスカのルーズソックス 08/03
- 短いスカートを競ったあの頃 08/03
- ふわりと広がるスカートのチラリ 08/03
- インターネットはないちもんめ 08/03
- ひとつひとつの句に時が止まる 08/02
- コンクリ足跡から、雀と猫と断定 08/02
- アラビアゴムが混ざった絵の具がパッ 08/02
- 見返り美人の切手の未練 08/01

たたみのへりを踏まないように辿り着く 08/01

ミシエルの青い瞳は行方不明 08/01

梅干茶漬けのサラサラ 07/31

初心者の梅干黴の中 07/31

梅干のざるに広げたり反したり 07/31

イカリング揚げ、カラリと 07/30

自称美食家の肥満 07/30

自称美食家の味の素 07/29

双子の黄身ばかり四つのオムレツ 07/29

蘇った思い出の黴臭さよ 07/29

剥いた南京豆を並べてゐる 07/29

マリリンの夜はNO. 5 07/28

香水の匂いごと閉じ込められてゐる 07/28

とぼっちりの火の粉が小さく水ぶくれ 07/28

キャンプファイヤーに熱くなる 07/28

いて座の矢放たれた夜 07/27

船長と共に沈めり 07/27

新月、南十字星を探してゐる 07/27

クロンボコンテスト女王の水玉 07/27

豆模様の手ぬぐいを作っている 07/26

- ゴチになりますと絵を渡すモディ 07/26
- 銅版ピカリと磨いて描く 07/26
- あゆを焼いている人にワンカップ 07/26
- 切れそうで切れない銅版の傷 07/25
- 家庭の味下町の味である 07/25
- 夏休みに帰ってくる顔と食卓を囲む 07/25
- 卯の花はおからとは知らずのオジヤラ 07/25
- 新茶を水出しでスっとお客様 07/25
- サビを丁寧に落としてはまだ使う 07/24
- ら・ふらんすばかりならんでお年頃 07/24

- カラス朝には嫌われてカア 07/24
- 人が来ておかずの花が咲く 07/23
- お稲荷さんのほこらから声 07/23
- ポプリビル風にゆらり 07/23
- 厚揚げをちよいとあぶり男同士 07/23
- 夢の映像は色付き 07/22
- 眠りこけたまま猫の時間 07/22
- 青春気づかぬうちに遠く 07/22
- 茶髪ガンダロは鏡の中 07/21
- 黒と黄の縞が迫ってくる 07/21

俳人と雲を見つ 07/21

なりわいにまだ届かない駆け出し 07/20

夏休みでもないのに絵日記を描く 07/20

犬同士飼い主同士の道端 07/20

薄紫 香りを撒き散らす路地裏 07/20

女流画家も女好き 07/20

ミミズ水を求める旅の日干し 07/19

ごちそうを発見した蟻のあわただしさ 07/19

イブには先約アリと君の顔 07/19

ホップと麦だけのビール飲みに行く 07/19

空に向かってコルク舞う 07/19

ガラス張りの空月も見えず 07/18

流れ星の塵かどうか鑑定中 07/18

アボリジニの笛もバリ産 07/18

ヒートアイランドのサウナに汗を流す 07/18

顔に張り付いた蜘蛛の巣の朝 07/17

雨雲のシルバーが広がってくる 07/17

乳母あたたかくフカリ 07/16

何もかも大きく受け止めてくれる富士 07/16

ふるさとの路地に住む 07/15

Wow! You got E-mail' アンニキーの声 07/15

内緒で集める高い器 07/14

貧乏長屋住まいの粗茶 07/14

手作りの焼き串で焼き鳥 07/13

割り箸を渡されて甘酒の梅見茶屋 07/13

酒かすに温まり除夜の鐘 07/12

酒を辞めたからとて治るかどうか 07/12

■に目が点になる 07/11

樽好き下町義理人情 07/11

紀宮様に似ているとよく言われたアタシ 07/11

ヤモリ張り付いた雨夜 07/11

ネットで公開できないオジヤラの意味 07/10

戸籍の出生秘話を追跡中 07/10

ひとつになりきれぬふたつのころ 07/10

一年に一度は浸水するあとりえの床下 07/10

本能が子鼠を取り、拍手の家族 07/09

出がらしの煮干食べもせず 07/09

ハートストーンたち、集まってくる 07/09

野良猫にビックリ愛猫ドア 07/09

鬼の門を塞いだ気になり福 07/09

- 鬼の妻となりオットは午前様 07/08
- バラの花びらちひさく笑う 07/08
- ベンガルの口がへの字 07/08
- 自分に恋する男の妻の物語 07/08
- 萌えゆく緑の先っぽはクリムソンレーキ 07/08
- 水虫菌繁殖の季節 07/07
- 縮れ麵にトンコツをからませて 07/07
- カナダ駆け抜けた辛い思い出 07/07
- キツパリとした笑顔で『お友達から』 07/07
- 決意という名の女の秘めた笑顔 07/07

- アタシではない女の髪の毛 07/06
- モチ肌に枕の跡 07/06
- オツカサン、ここが東京雷門 07/06
- 自称天才というのはどうも 07/06
- 妄想か才能か若き作家のノウミン 07/06
- 空から落ちてきた光に当たる 07/05
- 水の湧き出てくる壺空を映す 07/05
- 若先生の孤独 07/04
- 唐文字で描く一文字 07/04
- 誰も遊び方を知らぬぺんぺん草 07/04

- 雑草ばかり元氣路地裏の小宇宙 07/04
- 赤フンのセクシー 07/03
- 黒猫が横切ってひまわり 07/03
- @のため息 07/02
- もうすぐ土に戻る落ち葉 07/02
- 三面鏡の顔色を伺う朝 07/02
- 何もかも流して海へ 07/02
- 陽だまりの指定席にばかり 07/01
- 幽界から、ちよろっと夕涼み 06/30
- 川霧遠く犬の影ポツリ 06/30

雨がワツと降り地面がふやけてゆく 06/30

涼やかに水音 06/29

ろくろつ首がひよろりと伸びてペロリ 06/29

試食満腹会のデパ地下行進 06/28

誤字脱字だらけHPを更新する 06/28

プーケット買うハワイアンチョコ 06/28

免税チョコの値段に固まり買えず 06/28

塩爺を『カエルちゃん』と呼ぶアタシ 06/28

プーケットで買うハワイアンチョコ 06/28

できればギャルの多い場所で囲まれたい朝 06/27

煮卵と自家製チャーシューで金縛りのオット 06/27

亭主の好みと思い込ませる妻の力量 06/27

ジンライムの味の恋 06/27

背の丈の口紅後に少し退く 06/27

スコールのみずたまりビシヤット 06/26

夕日人を長くして夜になる 06/13

朝霧あきらめずにあるいている 06/13

あさあるきのあせあついおゆでさつぱり 06/13

空の上薔薇色に塗られている 06/12

川霧に消え入る人のぽつりぽつり 06/12

雨音が夜にまぎれて君と 06/11

フカフカの招き猫がヒゲを伸ばす 06/11

開運の三毛猫に赤い首輪 06/10

酒のラベルを集めるボスに奢られてゐる 06/10

天使の白兔に白い羽 06/09

天使になり、飛び立ってゆく 06/09

ドクロのペンダントに迷彩服のセンス 06/09

天使のはしご金色の雲の中へ 06/08

ひがしからまたおひさまのおはよう 06/08

銭洗い弁天で洗ったといふ五円玉捨てずに 06/07

金色の泡の中に解けゆく俳句 06/07

鬼殺して清泉 06/07

趣味で俳句を作りたいささやかな夢 06/06

俳が俳句という話に乗ったアタシ 06/05

ペコリと挨拶する人につながる犬 06/05

尾を振ってバウツバウツ 06/05

小心のワンコロの片思い 06/04

白髪混じりの笑顔、手を握る 06/04

犬を脅かして後悔だワン 06/04

チャイで昼下がりの異国 06/03

虎がバターになる話溶けてゆく 06/03

とうもろこし一本、行儀よく 06/02

有閑マダムブランチとショッピング 06/02

団塊のシルバーとなり怖いものなし 06/02

半分かしげたお顔の微笑み 06/01

猫が何かを喋った、チンプンカンピン 06/01

猫の鼻ちようちん思い出して涙 05/31

やはらかなせなかをまるくなでる 05/31

猫のヒゲがピンとしてソロリ 05/30

夕焼けに飲み込まれる影ポツリ 05/30

- お見事、ネズミ一撃 05/30
- 駆け落ちで始まる戦国ロマン 05/28
- 狙っても取れぬブービー賞品 05/27
- 馬にはいつも泣かされてダービー 05/26
- 白い灯台ぼんやり水面 05/26
- とがった岬が青い 05/25
- 伊豆半島の先っぽ友とピースサイン 05/25
- 足を痣だらけにして中免 05/24
- 笑顔あふれた路地裏のサンダル 05/24
- 洗い髪清々しく蚊に刺される 05/24

艶っぽい女などいるワケもない場末 05/24

右か左か岐路の先は闇 05/23

品無し猥談に一筋の光 05/23

思い浮かぶまま連れられるままに 05/22

不景気が壊す友情 05/22

菖蒲が咲き立つ足立のお池 05/21

千住宿下駄屋と呉服屋が並んでポツリ 05/21

宿場町の場末の裏道のあとりえ 05/20

あついあまぐものあたたかいあめ 05/20

温かい風が重たい雨を運んでくる 05/19

大雨で頑張る麦の緑 05/19

麦穂青い雨上がり 05/19

泣ける唄、ハンケチをにぎりしめて 05/19

辛さを知らない美しさのあの娘の幸せ 05/19

アタマがイイのか悪いのかよく解らない人だ 05/18

山法師がゆれて白く光る 05/17

法師がナンマンダブと言いペコリ 05/17

編笠尺八が飛んで一件落着 05/17

パソコンで作った名入り原稿用紙で公募 05/17

名前を漉き込んだ和紙に刷る 05/17

賄賂の受け渡し場所、メールで 05/16

貝型パソコン、そつと耳を当ててみる 05/16

ピカリと光る刀、鉛玉に勝 05/15

あのコのビー玉欲しくて勝負に出る 05/15

ケムシの天敵は母だったか 05/15

将棋盤をピシヤリ、王手 05/14

雨がパツと明るくなる朝 05/14

五月の鬱どんより 05/13

サクツとしたパイのリングゴ 05/13

八つ橋をほおばるお三時OL 05/13

東京の空が東京に沈む 05/12

一寸先は闇のウソつきワールド 05/12

女らしい男の行く先 05/12

女になりきれない男の焦り 05/11

こつちを見ている人形の目はガラス玉 05/11

捨てられぬと思っていたモノ捨ててみる 05/10

笑顔がお宝片方二重 05/10

ビールの泡をシュワっとさせてグイっ。 05/09

ササミを大量購入、猫用低脂肪餌 05/09

陽だまりで広げるお弁当、ホっ。 05/07

散らかった机の上で描く 05/06

フアジーすぎるロボットの悩み 05/06

トイレの落書きで告白、届かない 05/06

悪人面三人が笑う政党ポスターの怪 05/06

かたくりの花のあの娘うつむいて揺れる 05/05

湖北の漁が始まってゴチになる 05/05

荒れ模様に綿毛完全離陸 05/05

豆ご飯の黄緑をほおばる 05/04

薬草を湿布してホワン 05/04

御伽噺のポチがワン 05/04

- 色々な国のコインを広げる、思い出の風 05/04
- 星空の中ヘリコプター観光 380ドル 05/03
- ネイキッドMANが歌う新宿東口 05/03
- 一ドルを両替してあげたガソリンスタンド 05/03
- 薄口の白磁で頂くジグリ豆 05/02
- バリ島に行った猫は少し風邪気味 05/02
- バリの野犬群に追いかけられる新月 05/02
- 飼い主とつながったままで足をひよい 05/01
- 渋滞ウイークは日本晴れ 05/01
- 完璧なる球形綿毛のパレード 05/01

タンポポ、綿毛ワールド 04/30

絵を見ると思い出すあのこと 04/30

今日は日々谷公会堂の真上の天使 04/30

日比谷公会堂に蝉 04/29

愚痴神、飲み屋に住みついておじゃる 04/29

負け犬のお局よ、諦めるな 04/28

恋に恋して自分のことばかり 04/28

岩の絵にイマイチ自信の無さが 04/27

蕨の曲線はクレヨンで描く 04/27

恋の傷も癒えず負け犬 04/27

はじけた泡は跡形もなく灰汁 04/26

ニューハーフかオナベか川崎の路地裏 04/26

断ち切れぬ糸が雨に濡れて重い 04/26

目薬、ポカンとした口だ 04/25

残雪うすくなりゆく赤い新芽 04/25

糸通しを探している 04/25

翩殺しも、気づかぬ殺意も女の選択肢 04/24

咲かぬを咲かせるには肥料 04/24

釣りをしながら、また一句 04/23

すだれ越しのシルエット長い髪 04/23

風呂もいい加減の鼻歌混じり 04/23

ペンダコ無くやはらかいだけの物書き 04/23

読めない漢字を調べるのはラクチン 04/23

乙女は羽衣をまといて空へ 04/22

風の後を追う砂嵐 04/21

竹ペンを作ろうと竹の簾を100均で 04/21

風はまだ吹かず時間が止まる 04/21

畏にかかった兎吊るしあげる 04/21

わが猫も、食い意地帰宅 04/20

ちいー坊よ、よく帰った 04/20

兎と仲良しの犬が縄でつながっている 04/20

安倍川のほとりのアベックのアツアツ 04/19

船と紙テープが引っ張り合う汽笛 04/19

ゴミ燃やせば二〇番される下町ライフ 04/19

東京人も出口を間違える東京メトロ 04/19

切符を買うことも無くなった東京メトロ 04/19

メラメラと燃え上がって野次馬だらけ 04/19

キラキラと落ちて願い事と一緒に 04/18

涙する姿を映す窓がなぐさめてくれたよ 04/18

笑ったままの君、ずっとそこに居る 04/18

君に占領されたまま他にあてもなく 04/18

まだ占領されているやふな基地界限 04/18

しがらみ断ち切って鏡の中へ急ぐ白兔 04/17

だるまさんがころんだっ。タッチ 04/17

朝帰りのワケ 始発電車の光がまぶしい 04/17

大根おろしと春の肴でよいしょっ。 04/16

ふんわりと風にまかせた旅 04/16

ホントウはサチコでも今は 04/16

おまんまの食い上げだ不景気の風 04/16

森の果てにも太陽はそっと届けてくれる 04/16

- 上下がカットされたデジタル音の悩み 04/15
- デジタル絵画のはかなさよ 04/15
- 自称イタリアン・ローストで対抗する春夜 04/15
- 深入りのコーヒーを濃い目で 04/15
- 水面に映る景色風と流れてゆく 04/15
- 小船に引っ張られる入り江の母船 04/15
- 一人身のムスコと思いつ、気になる彼女のコート 04/14
- 肉じゃがでイチコロの青春 04/14
- あいあい傘で帰るしんじゃがと 04/14
- 音楽家には欄も美しいメロディー 04/14

首を伸ばした胡蝶蘭お口を開けたよ 04/14

たけのこがピヨコリと隠れん坊 04/13

春の陽だまりを探しては丸く眠る 04/13

薄緑が空に溶け込んで陽だまり 04/13

双六のレトロな女が笑う三回休み 04/13

なかなか進むことのできぬ双六の振り出し 04/12

攻めてくる木馬の鼻面にニンジン 04/12

洗濯物がひるがえり、また一句 04/12

雑草を食べるのが仕事の山羊の朝 04/12

デパ地下も春模様の旬 04/11

- 漆喰の蔵の中で守られる秘法の謎 04/11
- だいぶ厚塗りだ君の笑顔 04/11
- 笑い上戸のにらめっこ、優しい時間 04/11
- 蹴躓いて、空き缶とにらめっこ 04/10
- そんな目で見つめないでゴクリと飲む 04/10
- 目がギョロリとして動かず 04/10
- バッグに光るものを入れる外に出る 04/09
- 毒がじんわりと広がりやすらかに 04/09
- 山の中にひっそりと毒草 04/09
- ぽつんと淋しい坂の後姿 04/09

- ウソをつくとき、舌抜かれるよと閻魔大王の口 04/08
- 絵馬から飛び出した猿神社を逃げ回っている 04/08
- 焼き芋、コートの中のアツアツで指を暖める 04/08
- 豆腐のラツパ追へば遠く 04/07
- 少力で完成、天使がラツパを吹く 04/07
- ペテン師に引っかかりそうな春風 04/06
- 赤い月をたった一度見た椰子の木の上 04/06
- サクラクレパスのヌードの女が話し出す 04/06
- 家計簿もない就職活動の春 04/06
- 筋肉痛に思ふことありサポーター 04/05

野薔薇を摘む冷たい指先にチクリ 04/05

酒だけが沁みてうろ覚えの昨日 04/05

カラリと氷だけが音を立てるカウンター 04/05

やふやふ白くなりゆくやまぎは歓迎会 04/04

比呂さんようこそ連れ句しようぜー 04/04

水が冷たい、版画安息日 04/04

祭りのお菓자에並ぶリボンと子供たち 04/03

酔いどれ顔も連なれる桜街道 04/03

なかなか山頭火にはなれずに桜散る 04/02

ダンボールや空き缶に囲まれて川っぺり 04/02

- 雨に降られた桜が重たく首を垂れる 04/02
- 花びらの詰まった小瓶を開ける広がってゆく 04/02
- ゴール三個前、ふりだしに戻って一回休み 04/01
- 水面にも春が広がってゆく橋を渡る 04/01
- 土筆が背伸びして川っぺり 03/31
- クロツカスの刹那 そっと揺れる 03/31
- かすみそうが流行った学生時代の怪 03/31
- 提灯につられて暖簾をくぐる、美人だ 03/30
- 愛宕のお山は 夜九時までの提灯 03/30
- 連なれる桜の雲美人仙女降りくる 03/30

白い鳩が飛び立って平和公園の空 03/29

手折られた桜がはらり底冷え 03/29

血は巡りまた飲んでいる 03/29

保存料と抗生物質過多の血中成分 03/29

なんて不味い血だ、抗生物質と保存料の味 03/28

ジンギスカンは北海道の味 んめええええ 03/28

笹に包まれた餅をパクリ粒あん 03/28

上野は酔っ払いの吹き溜まり切符も買えず 03/28

咲きそろってふんわりと上野のおやま 03/27

金星が月によりそってピカリ 03/26

地に堕ちた天使が泣いている人間にもなれずに 03/25

薬師様のてのひらの上 万能秘薬 03/25

テクマクマヤコン白兔になーれ 03/24

桜も冷たそうな顔をした並木道 03/23

天使が東風を運んできて赤い和紙 03/23

桜はちらりほらりと咲きそうで雨 03/22

小物が並ぶ棚に、ポツと造花が笑う 03/22

贅沢な猫が皿の前でヒゲを伸ばしている 03/21

円盤の中に描かれるレトロな女 03/21

ひざの曲がった女を描く赤い頬 03/20

血の色の葉を持つ植物がパクリ 03/20

女が、もつと顔を丸くして笑う 03/20

ゲップもできない春の着たきりスズメ 03/19

あやふやな動きをするミトコンドリア 03/19

感性はひとそれぞれの春の展覧会 03/19

感受性と俳句の正比例 03/18

異常なしの後のビールが胃袋にしみ通る 03/18

明日は胃カメラの今日のビール一杯 03/17

名前をいつも忘れてしまう、あのう 03/17

スズメじゃない鳥が来てくれてチュピチュピ 03/17

- 日和見ヨジロウの瞬間描写のマジック 03/17
- 山のあなたへがいい山頭火 03/16
- 毒を少しずつ混ぜて、ジワジワ 03/16
- 真っ直ぐに渦巻く渦を描く 03/15
- 少しジャンプして橋の向こう側の虹 03/15
- すみれは並んで小さく笑う 03/15
- 笑顔の中に見える素の心 03/15
- 桜餅のピンクには緑色、きつと似合う 03/14
- 春よ来い薄桃色のコート 03/14
- ギター弾きながら銀座を流す春のコート 03/14

海から海へおひさまからおひさまへ渡ってゆへ 03/14

飛魚が飛び出してカモメは急降下 03/14

飛魚が跳ねる初日の出の太陽 03/13

輪ゴムで髪を束ねて、ラーメン味玉 03/13

男の子は混ぜてもらえないゴム跳び 03/13

北風小僧ひゆるるーんと春風に追われている 03/13

絹糸で組みひものケータイストラップ 03/13

ミモザの白いコートでやってきた美人ライター 03/12

春の服に迷う着たきりすずめ 03/12

自分にニコリとして出勤 03/12

仏様をまた一枚笑顔 03/11

文字がなくとも確かにそこにあつた証が 03/11

前髪の一筋だけ白髪の束となり染めもせず 03/11

露草たんと朝露をあつめて朝焼け 03/10

市場の毛蟹と目が合う泡をふかれてゐる 03/10

警察が来てガード下の不審者を通報せよ 03/10

首が回らないときには体を回せ 03/10

いつも追い抜かれている会社への道 03/09

ブロック塀の上でも、電線でも恋 03/09

いつだって恋は恋 03/08

- 全てをリセットし、令嬢のパラソル 03/08
- 矢がすりの袴にブーツ卒業証書 03/07
- 町田にはピカソが7枚も梅の花 03/07
- 梅の香が空にぬける空気はまだ冷たい 03/07
- 月賦の払いは完了浮世は無借金 03/06
- 深夜の応援だ、ガンバレニッポン 03/06
- あしあととはとぎれがち飛べるから 03/06
- 月で餅をつきすぎて食べすぎの桜餅 03/05
- さまよえる真夜中ここは？ 03/05
- ただいま連れ句メンバー募集中 03/05

- ネットのお友達が増えてきた。パソコンの中 03/05
- きつと晴れる友と集う日 03/04
- 雪はこんこん春は行ったりきたり 03/04
- 起き抜けの一句、生活習慣病なのか？ 03/04
- 電信柱のすずめモーツアルトの春の楽譜 03/04
- 都会の桜はなんか薄墨である 03/03
- 薄墨のにじみ 天へと広がってゆく 03/03
- まさに花という文字を描いていた 03/03
- 覗き見たい気持ちをぐっと 03/02
- 聖なる泉の水を撒き散らして祈る朝 03/02

純米辛口に限る命の水である 03/02

この春オープン鮮魚市まだ買い物できずにいる 03/02

カモシカの餌を栽培したいニポポの春 03/01

カモシカテッペンからむこうのがけにジャンプ 03/01

やさしい英会話も卒業 03/01

半襟は鶯色すつと足袋の指先 03/01

春色の服ふわり振り返る 03/01

香水の匂いが鼻をつく彼女の焦り 03/01

キムチがまだ辛いカルビ焼き 02/29

ベイブリッジの夜景が海に反射して背伸び 02/29

- 正統派の連れ句にキスしよう 02/29
- らくだとともに探すロプノール 02/29
- 湖はさまよいながら私のまへに 02/29
- シルクハットの中から兎と鳩が飛び出してピョン 02/28
- 花時計の真ん中に立って針になる 02/28
- を沢山描く練習を繰り返してぐるぐる 02/28
- 兎のお菓子、パクリと緑茶 02/28
- 千住ではボツタ焼きという近所の店 02/27
- 『千住で二番の大橋』は四時から男のスタート地点 02/27
- 熊も目覚めて腹減った 02/27

連れ句ヒツチハイク

二〇〇三年十一月七日から
二〇〇四年十二月三十一日



信吉の初 辰か苗

小さな杵と臼が鍋と並ぶ東京 12/31

赤子の肌を1000倍で覗いてみる 12/31

大掃除のよさ受け入れる年月 12/30

伸びた餅のつまみぐい 12/29

波が遠く引いてポカンとしていた 12/28

波がさらってゆく明日 12/28

夜店の電球の隅っこを類ばる 12/25

引きもどるさざなみ 12/24

蛍の頭が光って空へ 12/23

効率よくサプリでと痩せギス 12/22

- 平等におひさまが当たる一日 12/21
- 生きている、青いリボンつなが 12/20
- 冷たいオレンジ色がジュワーっ 12/20
- 感じのいい人のオーラの地下鉄 12/19
- 急に亭主となり妻となる 12/18
- ヒゲを伸ばして夢の中へ 12/17
- 私の椅子で寝る猫の至福 12/17
- ポカポカと冬日の猫の黄縞 12/16
- ジャワ更紗に透けるおひさま 12/16
- ざわわと日の暮れる風呂場 12/15

道と道がつながって開通式 12/15

突貫でお願いします棟梁 12/14

魔女のアタック死ぬ気で受ける 12/14

オリンピックのファンファーレ遠く 12/13

無心で引けば一等 12/12

屁ひりながらも落札 12/12

線伸びて紙から飛び出してゆく 12/11

ケンタリが見得を切る千住宿 12/11

魚の目が痛い背伸び 12/9

昨日にはもどれないグッバイ 12/9

- 捨てなきやヨカッタと空っぱのゴミ置き場 12/9
- 都心の漂流者となる夕暮れ 12/8
- ケセラセラと彫ってある両親の墓石 12/7
- トルネードが少しそれでピッチャーゴロ 12/7
- ハイヒールで殴り倒す国会中継茶番 12/6
- 鏡餅のカビ今はプラ入り 12/5
- お供え餅あられにする祖母のかっぱう着 12/4
- ボタン雪ふんわり重い一日 12/4
- 団塊の世代のこれから 12/3
- 全自動のレスが火の元 12/2

- 魚肉ソーセージ齒に詰まったまま 12/1
- ひき肉カリカリのコロッケの下町の味 12/1
- 駄洒落が下手でも憎めずに 11/30
- 山里の水で茶を飲む元旦 11/30
- チー坊がだまっちゃいない元旦早朝 11/29
- 風がぴゅーと吹いた絵本の紅葉 11/29
- 授業中に回ってくるエースを狙え 11/28
- ピンク、赤、白と薔薇の園 11/28
- 介護の合い間薔薇の絵を見る 11/27
- パソコンと少し会話して洗濯 11/26

- 学生時代の喫茶店探しても 11/26
- 土砂降りカラスもぢつと 11/25
- 骨の音と歩く新しい街並み 11/25
- じゅん君大人びて我が年に気づく 11/24
- 香り焚きしめて心軽くする 11/24
- プアゾン臭い女とエレベーター 11/24
- シャネルの5番キツイ残り香 11/23
- 5時間も見る芸能の好き嫌い 11/22
- ワンコニヤンコも駄句 11/22
- 訂正の句を仕立て直す 11/22

- ミロの絵の前に震える 11/22
- 追い込みは終わり掃除 11/21
- 軽いサイフで画廊めぐり 11/21
- 千住自慢のやりかけだんご 11/20
- 池も狭くなった 11/19
- 鯉の棲む恋の池 11/19
- 池の宝石が赤や白に光る 11/19
- 酒癖の悪いツイテないアイツ 11/18
- 除夜よりも甘酒のあまったるさ 11/17
- 冬ソナより冬ビール 11/16

そろそろ冬支度のあとりえ 11/14

ひとりで賑やかに月の兎 11/13

もらい酒のひとり酒 11/13

背中の愚痴夕焼けゆらり 11/12

雷空に描いては消える 11/12

虫の叫びかき消すキンチョール 11/10

焚き火で焼き芋と筍 11/10

連れ句で強くなる想像力 11/9

小さなお心遣いの包みを開ける 11/8

歯軋りを誰か確認してくれませんかね？ 11/7

年末のエンゲル係数の計算	11/7
水玉の石の庭の女	11/6
石の女そつと座っている秋	11/6
重い石戸の向こうの光	11/6
無意識に神頼み	11/5
とんぼ空と赤く飛ぶ	11/4
海の音が聞こえてくる	11/3
ペコリと謝れば気が楽になる	11/2
草履と草子の区別がつかないアタシ	10/31
オットも古くなった	10/31

古い女房の味噌汁 10/30

煮干と鰹節のハーモニー 10/29

こんにゃくだいこんもなかよしこよし 10/28

幼子に笑顔こぼれますように 10/28

冷たい床の炊き出しのあたたかさ 10/27

家に帰れぬ寒さと居る 10/26

飲めば暴れる後姿 10/25

町内会のプレッシャーの100メートル 10/24

パワーアップする『と金』の快挙 10/24

マッタばかり囲まれた王様 10/23

6枚足りない将棋の負け 10/22

襖の穴、原稿用紙がふさぐ 10/21

B5の原稿用紙が障子に貼られている 10/20

飼い主まで気づかぬ振りの障子のビリビリ 10/20

障子ビリリとした子猫の知らん顔 10/20

猫の爪を切っては磨いでいる 10/19

富士山のため息が雨を降らせている 10/18

白帽の富士流れてゆく車窓 10/18

青空が包み込む車窓 10/18

エコロ草スキに押されている 10/17

- 骨狙いのワンコがジッと 10/15
- ペットと朝ごはんのテーブル 10/14
- 鍋雑炊をお笑い番組と囲む 10/14
- 飲んだ後のアツアツをすする 10/13
- 渦巻くなるとがラーメンを華やげる 10/13
- コーヒー、ため息、ぐるぐるり 10/12
- ほっと肩をなでおろすパソコン前 10/12
- 出張の新幹線のひととき 10/12
- 秋のなかを歩く 10/11
- 情け薄くなりがちな平成の下町 10/11

- ガングロ女がまだポチリという北千住 10/10
- 精一杯の一日の積み重ね 10/9
- 暦残り少なく来年のカレンダー 10/9
- いん石か駄石かハートストーン 10/8
- 今夜もありがとうを夜霧の中 10/7
- オジヤラの歌姫伝説も今は昔 10/7
- 白か黒か、パレットの上 10/6
- セツカチな兔の一本道 10/5
- カメラさん、そこで寄ってぐぐっと 10/5
- 新聞を広げてはテレビ欄 10/5

- ホカホカをコートに入れてスキップ 10/4
- 焼き芋の新聞読んでいる 10/4
- 一人のテーブルは素うどん 10/4
- 饅頭を煮たことの無い東京育ち 10/3
- オットをつついてしんみりとしたゆうげ 10/3
- デキャンタでゆるりと赤 10/3
- いい塩梅のレッド 10/3
- ミヨウバンで金属板を磨く朝 10/2
- 冷蔵庫満杯です 10/1
- ぬかみそにミヨウバン入れる掌 10/1

秋の食材並ぶ庫内

10/1

冷蔵庫開ける音、猫がまとわりつく

9/30

飽食時代冷蔵庫のミイラ

9/30

ぐつと我慢絵に描いた餅

9/29

おはぎ迷って買わずに

9/29

糖分は酒に頼る

9/29

名月のヘソ餅、そつと

9/28

白玉を作りすぎた一日

9/28

蜂蜜のケーキがパンと皿の上

9/28

レンゲの蜂蜜が瓶詰めで春

9/27

人生さじを投げずにまだ 9/27

いつまでもオットに勝てずに六枚落ち 9/26

次の手も読めずギブアップ 9/26

スズメにパン屑を散らす朝 9/24

シユールなお月様に引っ張られている 9/24

すすきの穂を刈る兔のお月様 9/24

蝉の亡骸そっくりと秋風 9/23

駆け落ちの時間一人電車に乗る 9/23

蝉去って秋待つ空 9/22

知らぬ振りができて一人前 9/22

- 国技の美しさ伝えゆく 9/21
- 夏いつまでも粘っている 9/21
- 適当につなぎ合わせて懐かしい唄 9/19
- リセットボタンを押して新しい恋 9/18
- マンボステップの女に迫られる 9/18
- 途切れた連れ句がまた繋がる 9/17
- 小さな肩を落としてトボトボ 9/17
- 秘密の文様が刻まれる古箱 9/17
- よく振ったアルミ缶のジャンケンポン 9/16
- お湯が沸騰したキッチンのモノ忘れ 9/15

- ケータイのモーニングコールが煩わしい 9/15
- 操られて見得を切る 9/14
- 少し痛んだ服をつくろう人形使い 9/14
- 操る人人形の笑顔と目が合う 9/13
- 犬とすれ違う顔なじみの見知らぬ人 9/13
- ヒッチハイク役は女の御足 9/13
- 魚介類のカルパッチョカードで 9/12
- 獅子舞う足の水虫 9/11
- 祭りの音遠くからボチリボチリ 9/11
- サラリとつながる連れ句の和 9/11

バカ端句集団の俳句の愉しさ 9/11

少し色褪せた後悔の春 9/10

傘を回してみても君は来ない 9/10

小さなありがとうを積み上げる 9/9

墨、心おちつくまでひとり 9/9

割り箸で白く練ってペロリ 9/9

青春のガソリンスタンド勤務 9/8

イモにエッチというあだ名の同級生 9/7

ホックリ芋ほうばった至福 9/7

シンピジウムの薄ピンクが君の唇 9/6

静かにデンファレ ² つ開く	9/6
めつきり種ばかりとなるヒマワリ	9/5
安倍川餅の出店に桜	9/5
宮本三郎、宝石のような裸体	9/4
50号が小さく美術館	9/4
アンドレアの上に猫がジャンプ	9/3
白昼名画強盗の末世	9/3
平安の恋やんごとなきプライバシー	9/2
うつむきがちな恋	9/2
小さく頷くスマイレの紫	9/1

ねこの目が訴えてくる 8/31

曇り空に三本天使のはしごがかかる 8/31

風に舞う絵の一枚 8/31

花卉を覗き込む早朝 8/30

小さな朝顔の薄ピンクと目が合う 8/29

薄紫のウエーブの道の待ち合わせ 8/29

お多福に猫犬狸兔が食卓を囲む 8/29

銀杏秋の先取り 8/28

熟さぬ美しい実を描く 8/27

天使、俳句運を届けてくれる連れ句しようぜ 8/27

- パソコン手に吸い付いて一体となる 8/27
- アツアツのお芋迷いの中通りゆく 8/26
- 粒あんの大福の粉のおおぐち 8/26
- 黄な粉にむせる兎の潔さ 8/25
- 金色のウエーブに足を止める 8/25
- 稲田金色の風 8/25
- 赤い素麺一本をすくう、少しハッピー 8/24
- たった一個の万能蓋 8/23
- 色のついたそうめん争奪 8/23
- 割れ鍋綴じ蓋夫婦と呼ばれている 8/23

- おたふく顔の奥さんにひよつと似の「亭主」 8/23
- 獅子舞の足に蚊が止まっている 8/22
- 鳥居を守る仏像がこちらをチラリ 8/22
- 雀卓を囲む顔の薄笑い 8/22
- 黛まあるくマルガリータ 8/22
- 黛を強くひいて六本木ヒルズ 8/21
- 空を映す瞳そこはかとなない青 8/21
- シャボン玉はじけて空に溶ける 8/21
- 薬草の魔法が心を治す 8/21
- 春は桜草、夏は花魁草に水 8/20

薄いピンクや白の和の野花 8/20

名も知らぬ黄色い花が秋風 8/20

青葉広がってゆく 8/20

都鳥というラーメン店の再スタート 8/19

カモメの黒い羽先ヒラリ 8/19

雨の中に閉じ込めた冷たさ 8/19

霧雨、秋のつま先 8/19

雨を運んでくる雲のきまぐれ 8/18

アテネの女神は日本びいき 8/18

頑張った、感動した 8/17

工藤よ、オリンピックに行けよ 8/17

静寂の次の秒に喝采 8/17

静寂、拍手の渦になる 8/17

水鳥体操で美脚白肌 8/17

おめでとうっ、魚になって 8/16

機械の巨大モグラが作るトンネル 8/16

ロックのレコードばかり並んだ部屋 8/16

伊達男のウイנק 8/15

ヤッタネ、号外の笑顔に汗が光る 8/15

号外を手取る、驚かされる 8/15

男は辛いよ竜馬も男よ 8/14

北斗七星と夏が移りゆく 8/14

乾ききつた空を見上げる 8/14

寿司食いねえと言われてみたい 8/14

小さい秋葉の先にやってきた 8/14

あとわずかのせみしぐれ 8/14

伸びやかに腕が伸びてたいよう 8/13

ピエタが笑う満月 8/13

弁当箱、ハートが飛び出てくる 8/13

悪いことは書かない履歴書 8/13

- プロフィールを押して見るパソコンの人 8/13
- 猫が落ちた蝉を捕まえて戻ってきた 8/12
- イミダスも一枚に焼かれている 8/12
- 蛍光灯の音、君を照らしている 8/12
- 蝉の断末魔をくわえて下駄箱 8/12
- 道路にて死ぬほか無い都会の蝉 8/12
- ハンサムボーイがウインクする信号待ち 8/11
- 囲われた一畳畑ぶらさがりをる茄子 8/11
- 案山子の口あんぐりとこちらを見る 8/11
- 一人座禅無と向き合う 8/11

バッタやカマキリも夏休み	8/10
お盆に帰ってきてくれた猫の魂	8/10
蝉声に追い立てられて秋風	8/10
テノールの波長ライトの中に広がってゆく	8/9
猫、マジックで権蔵に変身	8/9
あくびの猫につられている	8/9
巨人が奪う野球の醍醐味	8/9
スクーター散歩の犬の地獄	8/8
チャンポンの長崎の雨	8/8
コンビニ隠れ食いのリバウンド	8/8

いかなごをツルツルと熱い飯 8/8

東京バナナの萩の月 8/7

イワシでカルシウムを補給の呑み助 8/7

短い言葉の中にみつけた 8/7

赤とんぼの目玉にいくつもの空 8/7

サボテンの小宇宙白い花 8/7

名前を忘れたホタルがピカリ 8/6

草の匂いに包まれて兎のお昼寝 8/6

すっぽんパワーで月夜 8/6

あの年で振袖は無いだろう演歌歌手 8/6

樟脳を入れすぎたタンスのトラウマ	8/5
クロゼットの中的大麻栽培	8/5
酔うと脱ぐクセに脱帽	8/5
逆転サヨナラ野球ケンのお盆	8/5
野球ケン、最後の一枚	8/5
熊キチと遊ぶ拳キチ	8/4
どくのあるしよくぶつのまほう	8/4
隣国の葛藤	8/4
おつかあごめんと、キヨシ様	8/3
適度に顔を合わすのが秘訣	8/3

- 箱入りの苦勞知らずの×印 8/3
- 丁の字を間違えるわが人生 8/3
- キツパリと半か長かの道を選ぶ 8/3
- キツパリと生きて青空 8/2
- 家計のエンゲル係数上位のペット様 8/2
- 飼い主と共に肥満犬 8/2
- 名無しのバツの悪さも雨に濡れ 8/1
- 日曜の朝の洗濯物 8/1
- 木っ端舟でさへ中国人のコックが乗っていた8/1
- パチンと割れてしまった紙風船の黄色 7/31

- 照り返すコンクリにジリジリする 7/31
- カチワリで応援す決勝 7/30
- 頑張った球児らの涙 7/30
- 一週間停学の新学期 7/29
- 甲子園まで応援に行くOBの父 7/29
- バカでケチな女でヨカッタ。 7/29
- 中を覗くための名無し句 7/29
- 兎も食べれる野菜を売っている 7/28
- ももこワールドにわらふ 7/28
- 小鼻のツンとした女ともめる 7/28

さくらももこも早朝の飲尿を推挙 7/27

蝉、チョロリと出して飛んでった 7/27

蝉もすすり泣く昼下がりに 7/27

夜が夏を呼んでいるような鈴虫 7/26

子猫の爪あとだらけの半袖 7/26

子猫がよじ登りキーボード 7/26

子猫は移動しながらアタシと添い寝 7/26

心よ強くなれと毎日祈った日々 7/25

子猫に子守唄うたっている 7/25

自らを販売す少女の物欲 7/25

- 荒川釣り人の場所で石を探している 7/25
- 水の流れを見つめている午後 7/25
- 健康グッズの話を書く夏 7/24
- ジトっと汗がでて行水 7/24
- 涙もろい男から電話 7/24
- 生き馬も目を抜かれる東京砂漠 7/23
- 血潮刺激で激痩せ 7/23
- 生き馬も目を抜かれる東京捌く 7/23
- 電力不足の次は水不足の東京 7/23
- 新しいエアコンになる、安くなる 7/23

隣の怒鳴り声がつつぬけの長屋跡 7/22

荒川満ちてかもめ 7/22

琵琶湖か荒川どちらがまずいのか？ 7/21

水道水で長持ちの切花 7/21

夏休みの帽子と自転車と 7/21

きりぎりすとすずむしチャットタイム 7/20

うなぎ屋で心臓の串刺しを出されてゐる 7/20

ぎりぎりすとすずむしの夏の恋 7/20

シッポまで縞の猫に赤い首輪 7/20

つながれた卵屋さんの猫は犬 7/20

猫と仲良し人の良い犬の散歩 7/20

繋がれた犬をバカにしたやふに猫 7/19

薄紫色に隠して猛毒 7/19

先っぽに毒を塗りチクリ 7/19

まち針、小さなおちよこに鎮座 7/18

トンボの針穴にまち針 7/18

先っぽにポツとトンボ 7/18

鬼やんまが来てくれた路地裏 7/18

野花の道風についてゆく 7/17

尖ったつま先の孤独 7/17

- パソコン変換に頼りきりのレポート 7/16
- みんな集まって団扇ひとつきり 7/16
- 機内のジョニー8歳台湾人 7/15
- 山神様のほこらに水を注ぐ 7/15
- 花の美しさカンバスに閉じ込める 7/14
- いつしか種となっている花先 7/14
- 笑って別れようなんて卑怯者 7/13
- ヒョイと如意棒を伸ばしてペシリ 7/13
- ワグナーにドキッ 7/12
- フィルターギリギリまで吸わなきヤスペイン女の唇 7/12

臭い足のニオイを嗅ぐ新しい猫 7/11

特性クサヤダレをくれるといふ友へ 7/11

澄んだ水のやふな液体を補充 7/11

ナポリターナのスパゲティー、アルデンテ 7/10

カツオもワカメも年取った 7/10

タラコパスタにブオーノ 7/10

久しぶりの万札に震える 7/9

別名アリ殺しのオジヤラ 7/9

訂正された前句を見に行くマニフェスト 7/9

朝起きたら違う顔 7/9

手製の万華鏡が笑う

7/8

泣きながら笑う道化師

7/8

袖の下、闇の中で無くなりもせず

7/8

ベラスケスの王女がフフつと笑うスケッチブック

7/8

タコの吸盤に吸い付かれている

7/8

冷や水と待つ日替わり定食

7/7

夕方から曇りの天の川の長い一年

7/7

授業そっちのけ君のいる視界

7/7

教室からそっとボールを蹴る君

7/7

『踊る島バリ』を探して古書店街

7/6

- 明神様がチャンと見てらいつ、べらんめえ 7/6
- 埴輪と目が合ってサイフが開く 7/6
- 横恋慕したいやふな君 7/6
- 無関心ってか！平成政治事情 7/6
- 踊り狂った女は全裸に 7/5
- 川沿いを走る女子高生が揺れる 7/5
- 深海にもいるネット仲間 7/5
- ジュリアナの羽扇子を拝んだあの頃 7/4
- 太刀魚が描かれてギョロリ 7/4
- 宿場の名残り薄くなり 7/4

カエルがキテネとニコリ	7/4
飲尿を日課とする作家のエッセイの怪	7/3
雷様と目が合ってゴロゴロ	7/3
水を汲む朝の道	7/2
ボーナスでちよつと潤う背広のポッケ	7/2
白く輝く山頂の水	7/2
飲めない水の井戸がポツン	7/2
水蒸気、分子となり浮遊	7/1
白い裾踏みつけてステップ	6/30
惑いの中にある、香を焚く	6/30

停電五時間サンダーストーン 6/29

虫に触れぬ子供の未来 6/29

スクーター散歩犬の迷惑顔 6/29

早退時間にはピカッと太陽の台風一過 6/28

ピーピングトムにピーっと笛を吹く 6/28

りんごの唄明るく流れてゆく 6/28

トマトケチャップ憲法のレッド 6/27

?で終わる名無し句の行方 6/27

千羽折れる折り紙を買って病院 6/27

千羽の鶴一羽一羽に 6/27

身近にあると気づかないハッピー 6/27

水しぶき浴びて綱に引かれている 6/27

サンダーストーンやり過ごす昼下がり 6/26

太陽潤んで空に溶けてゆく 6/26

少しずつ子供に帰る母の幸せ 6/13

雨を見つめては待つ一日 6/13

コンチクショー、腐った息子を持つ母のため息 6/13

いちごのつぶつぶくちいっぱい 6/12

一人百ワット発熱す居酒屋大座敷 6/12

連れ句の輪ひろがり、みな友達 6/12

- 雨音甘く広がるアールグレイ 6/11
- 自分にできることのささやかな積み重ね 6/11
- どの寄付を選ぶのかまだ悩んでいる 6/10
- お坊さんにおじぎして五円玉 6/10
- あるある探検隊が見つけたお宝 6/10
- ふるさとの隅っこのほこらのミステリー 6/9
- 雨にまぎれて流れ落ちてゆく 6/9
- グレープフルーツもほろ苦く 6/9
- 静やかなるオレンジに包まれている 6/9
- はちきれた蕾の君を待つ 6/8

程よく茹であがり、一本をすくう 6/7

切り株でホっとする山頂付近 6/7

月の中のうさぎが話しかけてきた 6/6

剃刀でそぎ落としてはまた生えてくる 6/5

行ったり来たりしてまた一句 6/5

ここにひろがってゆくはいくのひろろ 6/5

地獄門の前でピースサイン 6/4

雑誌の表紙の絵が考えている 6/4

今日は抜糸ドクターの孤独 6/3

薬草・健康食品の取りすぎでバテ気味 6/2

ふんわりとした雲ちぎれゆく風 6/2

はごろもを奪われた天女を描く 6/2

さんふらわあと書かれた船がボーツ 6/1

留守電の声だけが残された君の通夜 6/1

あと一步で留守電のケータイピカリ 6/1

広辞苑もCDの中でキラリ 5/31

ずいぶん字数の少ない辞書だ、ポイ 5/31

ビアガーデンの提灯ゆれてゴクリ 5/31

タコの活き作りを青い目に食わす 5/30

雨音に忍ばせて聞へ 5/30

『飛び跳ねてもっと強く』楽譜に迫られる 5/30

五等はティッシュ一個の年末 5/28

矢を放つ君に届く 5/27

ハサミで威嚇する横歩き 5/26

ピヨコンとカニが飛び出てきた 5/26

防波堤大きく歩く 5/26

夕日あふれて波間に消えてゆく 5/25

あさつゆにとけゆくあさやけのおれんぢ 5/25

旨い魚は高くてギョッ。 5/25

肉ばかりの皿が並ぶ 5/24

キチキチとデキナイオンナの手料理 5/24

奪えば冷めてしまう欲しがりやの女の涙 5/24

コロンプスの塔の下、指し示す方向へ弁当を広げる 5/23

マルケットで買うパンにハムとチーズの昼飯 5/23

ふりかけて喰らうマズイ飯である 5/23

心が重たくなる雲が涙 5/22

モナリザによく似た女も黒い服で 5/21

台風の日をのぞきこんでウインクでかわされる 5/21

台風のなま暖かい風でも飲む 5/20

血尿となる痩せゆく猫は箱の中 5/20

犬のワクチンを受けよと犬宛のハガキ 5/19

指を差し出すと、鼻を近づけてツヤツヤ 5/19

七分パンツから大根ニヨキリ 5/19

ラードコロツケにダボダボのアツアツ 5/19

黒猫か飛脚かはたまたペリカンか、一番安いトコロ 5/18

雑煮をすすり赤い耳が笑う 5/17

出汁は京風で丸餅 5/17

お雑煮かお汁粉か、ショーウインドー 5/17

ゲットしたモノは丸餅の中、パクリ 5/17

プリクラ、寅さんともひばりとも 5/16

- ルーレットが決める明日 5/15
- 抜け殻のような男の断末魔 5/15
- 五月の空の浮気のムシ 5/15
- 武家屋敷が語りかけてくる新緑 5/14
- モグラの地下通路に潜入、根っこ 5/13
- 団塊シルバー郡となり平成闊歩 5/13
- 飛ばしっこを羨む妹 5/13
- あっけなくしぼんじやうクロツカスの一年 5/12
- 見えないモノが憑いていると白装束 5/12
- タバコ代は猫となり家に棲まう 5/12

- 黄金蝙蝠が助けに来てくれた昭和 5/12
- オカマキヤラにも飽きてゴールドン 5/11
- 青蛙ピヨコンと手の平のうへ 5/11
- 苦瓜のやふな人 5/10
- 甘い水、こんこんと 5/9
- 分裂増殖す体内不思議世界 5/9
- 神様不景気をどーか一つ 5/6
- ボケ封じの神様に寄付殺到 5/6
- 花模様のボタンのシャツに決める 5/6
- ボタンも三つあけ、勝負に出る 5/6

絵に描いた猫たちが住まうアトリエ 5/5

笑う猫が消えてまた鏡の中 5/5

青い靴を履いた女の子兎を追いかける 5/5

幸せという名の香水君に 5/4

茶の生垣から生茶 5/4

てんとう虫が卵を産む草も植えてオーガニック 5/4

食物連鎖のアブラムシとテントウムシ 5/3

考えながら上野の森を棲みかとする 5/3

東京の雨はグレー少し苦い 5/3

男も女も若い相棒を求めてさまよっている 5/2

年下の男との恋のはかなさ 5/2

太陽の一边が鳥となり空に溶けゆく 5/2

メーデーもアトリエ 5/1

月を肴にサンテミリオン 5/1

肴の皿が多い、さては 5/1

大動脈にブスリ 4/30

佐藤錦の敷居は高い、もうすぐ夏 4/30

ビール風カクテルで軽く酔う 4/29

イタリアンブレンドを砂糖でね、マスター4/28

ワンころ、臭いをかぎに小走り 4/28

鼻の大きな犬で涙目 4/27

水虫の季節となり素足 4/27

酒に癒されているつもりになる 4/27

お代官様、好きなお品を 4/26

飲んででは机に飲ませている父 4/26

もしかしたら貧乏神？の人生もまた 4/26

骨董の価値もアートも水物で 4/25

井伊様のお茶壺が通ります。 4/25

見上げれば満天くよくよするなよ 4/25

インドからも、インドネシアからも紅茶が届く 4/24

- 見たくないものもよく見える眼鏡だ 4/23
- ばら色がそこいらに散りばめられて夜 4/23
- そよ風も少しずつ温かくそより 4/23
- 味わいのある新茶に小さな和菓子まで 4/23
- イマジン、空はいつもと同じに見える 4/22
- ダイヤモンドでなくても愛 4/21
- たそがれもまたよし帰り道 4/21
- さくらんぼは連なって笑う赤ほっぺ 4/21
- 提灯よまた来年、見上げれば新緑 4/21
- 桜餅は良くのびてほんのり 4/20

風がまきあげた帽子追いかける 4/20

萌黄色の山となり筈 4/19

路地裏ガーデニングのおだまきが笑う 4/19

ミミズがいてくれて、根っこも息をする 4/19

花ばかり咲かせている母の鉢植え一つ 4/18

曲がった竹をまた曲げて籠にする 4/18

華やいで少し濃い口紅 4/18

逢ひ引きは橋の上、雑踏の中 4/18

デジタル世代でも心はアナログ 4/17

携帯に吸い込まれてゆくデジタルになる 4/17

止まり木という名のジャズ喫茶で待つ 4/16

トリオの旋律に震えてジンライム 4/16

雨降って首チョンパのてるてる坊主は泣いている 4/16

破れ傘でもないよかマシで拾っている 4/16

ハイヒール折れたかかどで歩く雨 4/16

ワラビの笑顔、癒されている 4/15

パンジーと比較するとジミ目路地裏 4/15

デフレで何でも値下がって大商い 4/15

サングラス模様に日焼けした笑顔 4/15

スーパーの刺身安くても猫も食わず 4/15

アワビの刺身は推定三年前に一度だけ 4/14

アワビの味噌汁かと思ひ汗4/14

牛でも、豚でも、鳥でもアカンかった春 4/14

ゴリラがリンゴを掴んで、こちらに投げつける 4/14

妻と犬につながれた俺 4/14

断酒も禁煙も永遠の友 4/13

穂先をチョンとカットされ、並んでいる 4/13

潰されてもまた起き上がってタンポポ 4/13

マイ蔦で作るマイクリスマスリースの赤 4/12

ナイスキャッチです、ミスターニコニコ 4/12

足らぬ言葉足らないままずっと 4/12

道具だけそろえたリトグラフテキストを開く 4/12

コーヒー教室で器具を売られている 4/12

挽きたて部屋に広がりミルクの渦になる 4/12

居酒屋に並ぶ白髪混じりのストーリー 4/11

風と花びらの二重奏 4/11

青葉の混じる花見ポツンと 4/11

薔薇色の時はまた進みだしそれぞれの道 4/11

ニコリの受付嬢は唇だらけ 4/10

ちいさなありがとうで元気をもらおう 4/10

甘い雲の上にお月様

4/10

風が運んできた雲から雀が飛び出してくる 4/9

ひらひらと風とつぎの花 4/9

花びらがふきだまる路地裏から猫が覗く 4/9

紫外線を避ける春がまぶしい 4/9

冷たい手では描けぬコーヒーであつためる 4/9

全員がこちらを向いて手を振っているパンヂー 4/8

芽吹く薄緑おひさまに溶ろけて金色 4/8

カラスはカアと鳴いてカモメに混じる引き潮 4/7

男も女もちつもたれつ 4/7

年上の女は頑張る4つ下の彼 4/6

猿之助がドンツ掛け声渡りゆく 4/6

土筆で描くスマイレの花もまたよし 4/6

小さい籠花や土筆あふれて4/6

とろろ芋をすりおろしたる春の一品 4/5

ポカポカムードの二人に桜の花びら 4/5

つながれたままの犬は寝るばかりの底冷え 4/5

歯が痒い子犬木切れを放さない 4/5

コートを脱ぎ捨てた小型犬の散歩道 4/4

冬に戻る桜のどっしりと濡れた一日 4/4

母の背はいつまでも乗り越えられず白髪混じり 4/3

スネをかじられる幸せの臍繰り 4/3

大和撫子の笑顔淋しく平成ウエーブ 4/2

集めていた切手を少しづつ使う春 4/2

何度も繰り返しては戻りゆく記憶 4/2

酸素を投入するまた泳ぎだす 4/2

嬉しい話を届けてくれた春風 4/1

つるバラのフェンスにはまだ届かないつぼみ 4/1

クレマチスの新芽フェンスに手を伸ばす 3/31

背中が語りかけてくる裸婦の肖像 3/31

鴨南蛮、蕎麦かうどんか？ 3/31

カモにパンを捲いては癒されている 3/30

川つぺりの石を投げて学生時代のこと 3/30

うす曇の桜も寒そうなダンボール 3/30

席取り担当は大の字花日和 3/30

薄紅色の桜ももうすぐ 3/29

マイケルと名づけた茶色い蛙今年も来てくれた 3/29

羽帽子の女が通りゆく並木通り 3/29

映画館の看板の下君を待ち 3/29

花びらを浮かべてたしなむ辛口で横には美女 3/28

春日のぬる爛は辛口で 3/28

五分も三分もあるうす曇 3/28

春のお席は満席です。次は、芽吹き色 3/28

金魚がぼうふらを食べてゐる水盤の睡蓮 3/27

気の早い蚊だもう痒くなっている 3/26

杯のなかに桃色の花びらが一枚、ぐいっ 3/25

行ったり来たりしている春雨に濡れている 3/25

ふさ姫は八ふさを探す桜の林 3/24

モチモチと寄り添った夫婦の小春 3/23

こういう日は熱爛に限るね出汁巻きでね 3/23

天然かい？やっぱ旨いね、お好みだね。 3/22

備長炭であぶった肴の一杯 3/22

青草のコートで包まれゆく斜面 3/21

夕焼け色のバラの花束を贈る 3/21

バラの絵であふれかえるアトリエの春 3/21

オギスタカノリの墓を参るモンマルトルの墓地 3/20

ふわふわねこ柳をそっと触ってみる 3/20

石ころに笑顔を描いて、赤い布のうへ 3/20

蕨のてんぷらが並んで猫の皿の上 3/19

土木労務者は招き猫の収集家で美食家 3/19

芸術的な仕上げの新しい我が家の壁 3/19

少し桜の咲きかけた冷たい雨である 3/18

ねぶたの金魚が赤く踊る 3/17

子が笑う嘘をついたような眼差し 3/17

カボチャの馬車はクサマトリックス 3/17

灰をかぶった女の美しさよ3/17

学ランに下駄がコロン平成伊達男 3/16

タラの芽のてんぷらがふんわりサクッ 3/16

ワガママと名乗る客人北海道からくる 3/16

月影の淋しい足音におかえりなさい 3/15

考え事はクルクル浮かんでは雲の中 3/15

ひげの長い老人がなにやら話してくれたあとツイてきた 3/15

木っ端舟でたどり着く大河の果て 3/15

インスタントなクールさがまた魅力 3/14

銀座のジャズバーはイケ面ボーイだといいな 3/14

義理人情いいねえ、江戸っ子だねえ。 3/14

大きめの煮干+さば節のだしのお味噌汁の朝 3/14

池波センセイの素朴な和を味わふ。 3/13

時々ニードルを研ぐフランス製の砥石 3/13

画家の七つ道具に心を入れる 3/13

スズメはチュンチュンと籠の外 3/13

書の良し悪しより悪口で盛り上がる鳩居堂の展覧会 3/13

おばさんパーマ何故かスズメがちらりほらり 3/12

ハエ取り紙のハエを狙ったヤモリもまた 3/12

毒蛇捕獲後は、炎天の道路で車にひかせて干からびてゆへ 3/12

夢の中に広がる同窓会 3/11

五臓六腑に染みる一献、今日はこれから 3/11

お客様が来る日には、少し高い豆の焙煎機 3/11

生豆が届いて封を切るぷーんと広がる 3/11

胃液が出すぎて困るけど食べる 3/10

踏みつぶされないようにそつと 3/10

土の中はあたたかいミミズの天下 3/10

生まれたものをそつとてのひらに乗せる 3/10

あやふやな連れ句あやふやな春 3/10

金星が寄り添うように月と3/9

科学的証明もあるさしすせそ 3/9

麦か米か迷う梅干とポット3/8

一粒をのみこむ内側からキレイになる 3/8

頂いた種を蒔いてみる芽がピョコリ 3/7

花粉浮遊の代々木上原クシヤミ連発 3/7

吐き捨てるなガムがベタリ 3/6

飲んでいることも忘れてボルドー 3/6

おなじ夢をくりかえしみた朝のノウミン 3/6

夢が見つかってヨカッタですね。幸せです 3/5

ススキは一掃されパンヂーの虹の広場 3/5

ちよつと待っていると、ナンパされちやうハチ公前 3/5

自動販売機の中から熱い天使のお出まし 3/5

今日は絵が売れて少しリツチ 3/4

赤く大きくうるんだ夕日ちつと 3/4

心中が無理心中か水はまだ冷たい 3/4

赤いはね橋の絵の中にも春 3/4

イカスミのインクで刷る一枚 3/3

セピアに色あせた写真灰になる 3/3

悪いことをしたとはしやぎすぎを思い出す 3/3

生酒をほんのたしなむ程度桃の花 3/2

赤いボート青い湖面、ビールよ待っている 3/2

川の水はまだ冷たくて空色のボート 3/2

陽炎の中、きみとぼんやり歩いている 3/2

若いモデルだ、すぐに年を聞いているアタシ 3/1

指先が凍りそうな春雪で桃の花 3/1

こどもことばの中にはいくをみつけたよ 3/1

小さな雛人形一年に一度だけ笑う 3/1

女でヨカッタ赤い雛壇 2/29

赤い葉先がだんだんとうす緑になる路地裏 2/29

時にはまぶしくつぼみしつかりと 2/29

散歩道に、ほら早桜 2/29

いつもつながれた犬は、まだつながれたまま 2/28

震えてしまう小型犬には犬用の服二枚重ねで 2/28

犬と深夜散歩の女は何故か美人 2/28

真夜中の信号は赤そーっと渡る 2/28

うぐいすが来てくれた赤に止まる 2/27

生きてゆくとりあえずこの春 2/26

生きていれば、まるで嘘のような大波小波 2/26

今日も大負けで雨も落ちてきた 2/26

タバコ臭いパチンコ店の華のエプロン 2/25

誰が来ているというのかーが四つのキリ番 2/25

菜の花のおひたしで一献少し苦い 2/24

新月にほんのり照らされて桜のつぼみを見つける 2/24

ジャズバンドで歌ったマックザナイフ 2/23

ふんわりと風を抱き込むワンピースの春海 2/23

ヨットに乗って七つの海のシンドバッド 2/22

どうだい♡海の上を走る気分はゆりかもめ 2/22

ユリカモメで行くお台場、海の上を 2/22

タマちゃんの孤独東京湾 2/22

タマちゃん、今年もくるだろうか？ボートデッキ 2/21

土の中の虫も目をさましたおひさまのポカポカ 2/21

立ち枯れた去年の下から今年の緑色 2/21

ポツと明るくなる★を見つけた一億光年の光だ 2/20

お月様に窓から覗かれている春 2/20

黒い夜も満月が明るく照らしてくれる 2/19

菜の花のサラダカドミウムイエロー 2/19

時計を持って走り回る兎赤いチョッキ 2/19

『30分待った』と残された駅前で君も 2/19

キラキラと川の中に落ちてゆく花火の花びら 2/18

よく動く絵馬の中の猿である 2/17

春一番の青空さくらそうの揺らめき 2/17

三叉路の止まり木でどちらに行くか悩んでゐる 2/17

波に消されてゆく足跡にかもめが降りてくる 2/16

つくしんぼうがピョコリ土手にも 2/15

大きく咲いたチューリップは二百円腕に抱えている 2/15

一枚がハラリとして、春日の昼下がり 2/14

今はビルとなり溜池の夕空2/14

カラスの天国にも天使新都心 2/13

ビルのでっぺんのハシゴの上カラスの子がいたよ2/13

ショーウィンドーはブランドバッグに占拠された銀座 2/12

ショーウィンドーの足網タイツにブーツ 2/12

ポケットの中は小銭だらけジャラリと鳴らしてみる 2/11

目に見えない女確かに鏡の中に…… 2/11

結露の窓の水滴が落ちるのを見ている君はまだ 2/10

子供の赤ほっぺを、ツンとつついてみる 2/9

天然の天使赤いインクで飛んでいる 2/9

花びらはそつと閉じておやすみ水盤の上 2/9

主のいない蜘蛛の巣には、大量の獲物うごめきし 2/8

蜘蛛の糸がプツンと切れて地獄に逆戻り 2/8

百円屋の常連となり、4件をハシゴする 2/8

扉を開ければそこには走るウサギ 2/6

もうそろそろアトリエに行く時間 冬空 2/6

火に手をかざして温まる青空 2/6

青空がそつとため息白い霧2/6

雲が薄桃色になり朝 2/5

路地裏にそつとやってきた春 2/5

あぜ道を歩けば赤いがくの白梅 2/4

YANさん、ウチの連れ句もヨロシクね。2/4

<http://ojara.csides21.com/monkey/monkey.cgi>

さざんかのつばみがふくらんでまたあした 2/3

砂浜に溶け行く足跡を見る振りで君のふくらはぎ 2/2

乾杯を繰り返し人間が壊れてゆく 2/2

ふふふっ、と何やら思い出した横顔 1/31

泣いている女の顔を映す電車の窓そつと見ない振り 1/30

街灯の下で待つ小さな天使1/29

ブ厚い大根をほおばる熱さが食道を通ってゆへ 1/28

- ペリカンの絵の具紙の中に滲み出て空 1/27
- セーブル筆の号で描くルノアールの女 1/26
- 明日は明日の風が吹くらしい、一人絵を描く 1/25
- 雪雲と雨雲の戦い氷の夜 1/23
- 摩天楼の天辺に住んでいる悪魔と天使 1/22
- 上りきったテツペン、雲はずっと下の方 1/21
- 陽炎の向こうに泉を見る天国の水である 1/20
- ボーダーラインの向こう君は誰？ 1/18
- オレンジとグレーが混じる夕焼け、踏み切り前 1/17
- あかすの踏み切りまた突破する男あり 1/17

けいとうの花が揺れる陽だまり 1/15

散歩に出た猫陽だまりにぼつり 1/14

重いものを持つと肩が凝る天使、頑張る 1/13

天使もスカスカの骨だから はばたける 1/11

ベジタリアンの足骨はスカスカ 1/9

ペンキ塗りたてベタリと空っ風 1/8

墨に、赤黄青とペンキを垂らしてミロのキャンバス 1/8

椿の花粉が黄色く咲く青空 1/7

地下鉄では少ないケータイ女 1/5

満員電車の朝携帯女にメール 1/5

ハイヒールで踏んだかかとを踏み返されたよ 1/4

ハイヒールに手玉を取られて蹴りを喰らふ 1/3

毛玉を吐く薬 1800円で元気を取り戻した 1/2

猫の毛玉を吐く薬を舐めさせている元旦 1/1

恒例の甘酒をすする 1/1

お飾りはおいくらですかお寺に赤い旗 12/31

自前リリースとは、自作のリリース 自宅の蔦で 12/30

自前蔦で、マイリリースを目指す 来年 12/29

今日の運勢は赤正月カラー 12/28

雪が降る雲のテッペン 天使は暖を取る 12/27

尻餅は食べられない 天使は空へ 12/26

天使が持ってきてくれたポインセチアの赤 12/24

カンバスに描かれたツリーにもサンタはやってくる 12/23

鼻をピカピカに光らせて走る イヴの夜 12/22

サンタ 時間を止められるから大丈夫 12/21

安売りのポインセチア植え替えて綿を置いてみる 12/20

カステラより、クリームのついたやつにしてよ 新年 12/19

おおっ、☆☆☆レストランのカツレツツ 12/18

女神のマツ毛もイルミネーションの中に 12/17

滝に打たれて 脳ミソを軽くする 12/16

虹色の花瓶に白い花を描いてみる 12/16

雨だれの音しげしげと眺めている 12/15

刺青は、天女の模様でお願いね 12/13

ローラーはピタリと収納されプレス機の横 12/12

潰れるままに潰してしまおうアルミ板 12/11

脳ミソを取り替へて 新しい私になる 12/10

魔女のホウキに乗って魔界のパーティー 12/8

真っ直ぐにゆく、そっと 12/1

体質は変えられる。心、なかなか変われぬ 11/26

養命酒はまだ要らないようだ暖かいつま先 11/24

仏様も背負っているあみだ手を合わせてみる 11/23

モテないおんなのおとこうんのわるさよ 11/20

谷間 目のやり場に困りながらチラリ 11/19

おひねりを谷間に挟んでウイंकを投げる 11/19

来年は五円になるだろう踊り子は舞う 11/18

『じゃ、一円ね』と幼子がピエロに手渡している 11/17

大道芸人が差し出す小さな空き缶に小銭 11/16

ピエロがジャグラを投げる帽子を落とす 11/15

昨日の残り汁で粥 11/15

後ろ髪を引かれる思いで 食堂を出る 11/15

いいことありそうな洗濯を干す

11/12

少し光が見えてきたね空

11/7



◆連れ句催促軒

二〇〇四年六月二十九日から
二〇〇四年十二月三十一日

歳時記ひらくこともなくまた一年 12/31

元旦から営業で正月ということもなく 12/31

滑る道をそつと八百屋まで12/30

白く包まれゆく張り替えた障子の外 12/29

寄木細工のパズルてのひら12/28

土産物に秘められた千年の願い 12/28

煙と流れてあても無い場所12/26

かじかんで少し歪む 12/24

自著読み聞かされる年末 12/23

積ん読の山積み 12/22

孫子を読んだこともあったOL戦国時代 12/21

食卓の湯気も笑っている 12/20

電話の向こう安堵のありがとう 12/20

母の働く姿が教えてくれたよ 12/19

男に頼った人生を歩むなと母 12/19

冷酒胃袋に沁みて子の明日12/18

たった一年の人生の肥やし12/18

せわしくまた一年 12/17

サイフはあれど肝心が 12/17

木枯らし懐に入っては奪ってゆく 12/17

オット研修中につき粗食 12/16

3.14ではない.33 12/16

河童になった悪餓鬼の手に胡瓜 12/15

細道分かれたり一本になったり 12/15

つながってゆく俳句の細道12/14

ご縁の大事さかみしめる 12/13

香り焚きしめて待つ夜 12/12

きつと生まれかわっている12/12

キリリとふんどしの赤一文字 12/12

ちよろりと流している有害物質 12/11

水道水にフィルターの黴 12/10

マズイモノは食べたくない、健康になりたい 12/9

見境のない卑しさの曲がった口 12/9

金は誰だって欲しい煩惱 12/8

担保は右腕でお願いします12/7

借金もできずビンボーライフ 12/7

駆け出しの一年の空色 12/6

雪よけの傘お地蔵さんに 12/5

酔味噌の作り方を教えるバリ島ヌードデッサン会12/5

研ぎ澄まされる感性の先っぽ 12/4

兎、ウンチクを穴に吹き込んでいる 12/4

虫には五分の魂、ネコには尻尾 12/3

弱虫も正義を学べば 12/3

強気の裏側に揺れ動く 12/2

イワシ雲の道を歩く 12/2

川面に映る雲を数えている12/1

招きイヌと猫がケンカをはじめてしまったよ 11/30

ほこりをかぶった招き猫の招運 11/29

ハートでポケットが思い海っぺり 11/29

どんぐり拾ってはポケット 11/29

冬がとじこめた蕾と 11/28

冬の春日に飛び出た新芽赤く 11/27

生温かい冬の椿 11/27

デキ婚は茶畑の小屋から 11/26

田舎道のお里のお茶を頂く11/26

寿司食いねえと静岡茶 11/25

大川に棲む河童が飛び出てきた 11/25

町の名前ごと消えてゆく昔11/24

京都までを地図と歩く 11/24

わさび色が背景のアンドレア 11/24

- 少し炙ったはんぺんの熱燗 11/23
- 黒いはんぺんの中に地図 11/23
- セブンイレブンのおでんが買い占めたM卵 11/22
- 魚の目の千鳥足 11/22
- 神様を祭ると言って飲んでいる 11/22
- 居酒屋の透明な液体で癒す 11/21
- 飼い犬に慣らされた飼い主のあくび 11/21
- 手縫いの小さな猫がぶらさがっている 11/19
- ブランドより素晴らしい手作り品 11/19
- バリ島で買う吉満醤油 11/19

ミルク渦を巻かずに湯気と11/18

渡る鳥の夕空 11/17

急に冷たくなった空に風邪をひく 11/14

ポッケの小銭に助けられている 11/13

ナフタリン臭いタンスのこやし 11/13

パリっとスーツに黴一点 11/12

ワイシャツの洗濯日が増えてきた 11/12

融けたり流れたりするのん兵衛の朝 11/10

雨しのぐ小さい屋根の雨だれ 11/9

温暖化の秋 11/7

- 銭を集める貯金箱である 11/7
- 豆食らう鳩に似ている 11/6
- ピカソ顔の兎はハートが逆さ 11/6
- 電車でメイクの厚顔無恥 11/5
- 後出しにブーイングの球場 11/4
- 白い兎の叩けばホコリ 11/3
- 風のありがとうが聞こえてくる 11/2
- 琥珀のキセルのドナドナ 10/31
- ムーミンパパのパイプが無くなった 10/31
- ポンでロンの逆転 10/30

冬に差し掛かる晴れ間 10/29

毛布配られて浅い眠り 10/28

親方、新しい石が落ちていますぜ 10/27

・・・で盗み見る催促軒 10/26

強面やベンツにぶつからないように歩く下町 10/25

血糖値きになりつ黍団子 10/25

牡蠣、ボージョレーで集う10/24

鬼百合りと山を見下ろして 10/23

力いっぱいの花一輪 10/22

弟が欲しいとママにねだる一人っ子 10/21

- 変えの草鞋売る店もなく 10/20
- ほろ酔いの人生ささやかに10/20
- ジョンかポールか悩める乙女 10/19
- てのひらの赤い実の内緒話10/18
- 今日も歩いては一枚のケンタリ 10/18
- エビ天の給料日 10/17
- ナチュラルペンキ柄アタシのジーンズ 10/15
- 萩の葉雨粒ひとつひとつ 10/14
- 変身のチラリズム 10/13
- 冬毛の猫のフカフカ 10/13

朝もや犬と金色の並木道 10/13

ポインセチアの並ぶ道 10/12

品の無い替え歌のクリスマスソング 10/12

薄れてゆく夏の傷 10/11

風、傷跡を残したまま 10/11

猫まるまって団欒 10/10

立ち枯れて秋の忍び足 10/9

疲れきった顔の良い人 10/9

よく吼える犬の飼い主の失敗 10/9

天使が入り口から入ってくる 10/8

笑みの消えた小さい顔大人びて 10/8

生意気な小童ぶる下げるブザー 10/8

どんぐりが落ちてきて青空 10/7

働ける幸せの秋一つ 10/7

ムチが怖いわ、お手柔らかに。 10/6

幼子の手の平に飴玉 10/5

食欲を彩る季節 10/5

やりくりはオット任せ 10/5

藤吉郎というボスの源氏名 10/4

ネズミ男のような上司の薄笑い 10/4

あだ名はウヘニという名の三毛猫 10/3

自分が一番の飼い猫様のヒゲ 10/3

どうせといいながら諦めもせず 10/3

連れ添ってあしたも 10/2

なんとなく連れ添ってまた一年 10/2

情念の酒を女と差しつ 10/1

閻魔という焼酎に唸る 10/1

閻魔大王が舌を切るらしい 9/30

天使待ちわびて浮かび上がる 9/29

地下鉄の出口迷宮へ 9/29

- 地下鉄が入るところの写真を持っている 9/29
- ゴミ箱全廃で仕事が楽になったと父 9/28
- 蛇口から命の水 9/28
- 浄水器の水より美味しい水道水 9/28
- 垂れ流した汚水が戻ってくる 9/27
- ヤカンの音ピーと呼び立てる 9/26
- 金色の花弁、茶の葉と手を振っている 9/26
- 空色の悪夢白く塗り替える9/25
- 道楽の道サイフの中身 9/24
- 伊勢海老で釣るタコの道楽9/24

烏賊釣りのゆらり水面 9/23

賞味期限切れのビールを開ける秋 9/23

ソーダ水の泡ばかり見て 9/22

それぞれの箱の中にふるさと 9/21

餅やノリ航空便に詰めている 9/21

長く連なれる駄句の道 9/19

駄句やむなしも、次の人にも配慮して 9/19

風に流されてここまで来た9/18

笹の細道に風 9/18

山林の道なき空 9/18

一重が二重になって虞美人草 9/17

イケ面の横争奪のオババ宴会 9/17

天ぷら粉のドンド焼きを囲む 9/16

ニンジン为天ぷらにして大根おろし 9/15

栗御飯のお重残さずに 9/15

赤い鼻のキジ猫の笑顔 9/14

へソ餅盗む子の自慢話 9/14

月見団子を蒸して囲んでいる 9/14

空青くまだ赤くならぬ立ち木 9/13

スイカの赤さ胃袋を冷やしてゆく 9/13

年若の兵隊さん日本の唄と9/12

青首美しく白いうなじ 9/11

味沁み込んだ金色 9/11

自家製チャーシューでコツテリ 9/11

ステーキムがチャーシュー茹でている 9/10

だあれもない神社の石探し 9/10

父の背中の喜怒哀楽 9/10

背中が少し淋しい夕暮れ 9/9

首の後ろにチクリ、シツポパタリ 9/9

引っ掻き病の猫に注射 9/8

- 千切れるほど尾を振る犬の忠信 9/8
- ソリ引つ張ったタロジロの銀夢 9/7
- スクーター犬に同情のウォーキング 9/7
- しなだれて膝の上のシッポ9/5
- シッポの縞冴えて長くなり9/5
- 朝が一番活躍する子猫の悪戯 9/4
- ペットの空腹に起こされる朝 9/3
- 猫が目覚ましの枕元 9/3
- 日曜美術館で始まる朝 9/2
- 緑のピカピカがへばりつく夜 9/1

糞ころがしの章は何度も読む 8/31

きつつきにつつかれた音の中に立つ 8/31

はともよなれてまたそらへ8/31

小さな石の心臓の鼓動 8/30

人の心に移す心石 8/30

いつのまにかポケットが重いハートストーン 8/29

光合成ランチタイム 8/29

指パッチンの練習の成果 8/28

風船欲張ってパチン 8/27

ゴマミソを練ってズイっ 8/26

皿を数えてすすり泣く女にも墓 8/26

雨宿りの軒下ねこじゃらし 8/25

スキップのつま先はアチラへ 8/25

チー坊に借りの負い目、スキップの飼い主 8/25

涙が金になる人魚泣かされっぱなし 8/24

アニマル浜口の無念 8/24

花木の夜のステップ 8/23

水火土木にあとひとつのパワー 8/23

愛するものの大の字の安らぎ 8/23

妻の座布団に猫の大の字 8/23

羽衣を隠して美人を妻に

8/22

月桂樹をアタマに乗せる、フワリと浮かぶ

8/22

ローリエを一枚秘密裏に

8/22

表彰台で手を上げる、月桂樹のにおい

8/21

応援の声届け

8/21

見知らぬ場所の心石

8/21

笑いを運んでくる心石

8/21

石拾う間も無く兎が走る

8/20

少し冷たい風私を取り巻いて踊る

8/20

風がそっと秋に塗り替えてゆく

8/19

まだまだ現役団塊パワー 8/19

老子曰く、で始まる本を見つめる 8/19

ウンチクは小出しに門出の言葉 8/18

画集ばかり並べるあとりえ8/18

もう読まない本が並んでいる 8/18

失敗してはまた描く書き損じ 8/17

紙にはいつも悩まされる 8/17

白馬の王子様の苦行 8/17

こういうものにワタシはなりたい症候群 8/17

筋を通して生きる潔さよ 8/17

上司より守りたいものがある 8/16

子猫はミャーと鳴きウチの子になる 8/16

子猫のネコキックが目覚ましの朝五時 8/15

朝五時に起こされてまた眠る 8/15

そっと見守る妻になりきれずにいる 8/15

オットをどうするのか考える妻一人 8/14

電子蚊取りのランプチラチラリ 8/14

完全に忘れた朝の嫌な夢 8/14

あったかいそのへんを知らせる蛍 8/13

冷や飯に残りおかずの一人の朝食 8/13

小笠原丸で運ばれた島の唐辛子 8/13

甘い唐辛子を育ててゐる 8/13

唐辛子の薬を試してみる 8/13

ふるさとの下町荒川も止まらずに 8/12

早朝のラブコールミンミンに起こされる 8/12

忍び足のヒゲとシツポがこちらに来る 8/12

頭のいい女は、100万人に5人らしい8/11

長男はジャニーズ、次男は吉本にと同級生の夢 8/11

眉毛だけ美人違和感顔の撫子 8/11

虫のオーケストラは皆殺しの都会 8/11

ゴマと名づけた石にヒゲを描いてみる 8/11

卵パック九十八円で走る8/10

手抜き野菜炒めにクレーム 8/10

五目御飯の彩りを囲む 8/10

催促されて笑顔になる 8/9

天使が届けてくれた、ハートストーン 8/9

ネット社会に巣くう魔女 8/9

選句の憂いの物語 8/9

熟年パワー炸裂ネット俳句会 8/9

ゲートボールご一行様が個展に来てくれた 8/8

炎天球児の汗熱く 8/8

土を拾い涙は置いてゆく夏8/8

フアンのためにある野球のプロ 8/8

十五夜の兎の餅のモチモチ8/7

三蔵法師のラクダのため息8/7

お布団の世界地図 8/7

あてのない旅のアテネ 8/6

手に汗握るアトランタ 8/6

ゆで卵のやふな肌の半そで8/6

せめて美しくした気になる心のたそがれ 8/6

ハート型の糞する兎がジャンプ 8/5

草食の糞の丸い臭さを踏む8/5

安倍川に兎の足跡見つけ 8/5

皮をはがされた兎に黄な粉8/5

自家製どぶろくは白兎と襲名 8/4

白波ドンパと押し寄せてくる 8/4

トンコツの鹿兒島を味わふ8/4

おんぶを見なくなった東京メトロ 8/3

あちこちで契る猫の貞操 8/3

オットには内緒そつと外国にへそくりで 8/3

シッポの長い猫夕闇に溶ける 8/3

泣きながら乾杯唄う友の恋8/2

着メロは別れの歌が一年 8/2

電磁波で少なくなる子供 8/1

『これは何?』携帯電子蚊取り 8/1

屁ひり女房にも諦める十周年 7/31

会わずが幸せのネットの女7/31

新人のウインクにイチコロの役員 7/31

剣玉が出来た弟の夏休み 7/30

やんごとなきみやびなるサッカー 7/30

絹の蹴鞠を包みあげてゆく7/30

チラリと美人がこつちを見た 7/29

歌って踊れる総合職は、オジサマに大人気 7/29

角の丸いピンクの名刺、ママに渡される 7/29

受け狙いの兎が笑う 7/28

しょうのうで動く小船の洗面器 7/28

バイクの中枢 7/28

最速のマシンで催促に来る7/27

元気の秘訣は催促軒 7/27

健康話に流される若手エッセイスト 7/27

博識白兔のウンチク 7/27

小石透けて見える冷たさに足を入れる 7/26

眼鏡を磨いてみた、よく見えた 7/26

自分の顔がゆがんであさつゆ 7/26

涼しい場所を選びだす猫 7/25

描いた招き猫の小判を飾ってみる 7/25

猫ばかり飼っている 7/25

爬虫類ファンの幸せ 7/24

副業はメダカ売りのお隣 7/24

水草の気泡涼しげにめだか 7/24

露天で兎を売る白兎 7/23

撫子髪にさして縁日 7/23

新しい浴衣は君の好きな撫子で花火大会 7/23

ファイナーレの音、煙と余韻が残る 7/23

ずいぶんとやつれたおんながゆっくりと行く 7/22

食べているのは痩せたい女ばかり 7/22

キーボードの上に乗っては降ろされる子猫 7/21

星を散りばめた道歩いてゆく 7/21

越谷へ逢引アクセル 7/20

薄くなった頭が泳いでいたに違いない河童伝説 7/20

気持ちのよい夢は暑さで悪夢 7/20

優しい絵がそっと話しかけてくる 7/20

ほどほど難しく生きる 7/20

四季の無い国の孤独 7/19

ワンワンパトロールの反射鏡つけて散歩 7/19

ブランド固めの女も汗だく7/19

手足が白い縞に血を吸われる 7/19

百均の切子グラスに冷酒 7/18

冷酒と愚痴を飲み込んで屋台 7/18

博多の女だって、どおりで7/18

- 花押の美しさに恋 7/17
- 暫九のダンナにバツサリ 7/17
- 助けられない駄句もある 7/16
- どこまで切っても金太郎が笑ふ 7/16
- 愛の花言葉あふれ出るブーケ 7/15
- コスモス街道のチラリホラリ 7/15
- アヴァンチュールも記念写真も 7/14
- 旅の温かい思い出 7/14
- 今日の朝ごはんを考える 7/13
- 健康フリークの常食レシピ 7/13

風様が通り麦茶 7/12

前髪あどけない君の通る時間 7/12

葵の御紋がこちらを見ている 7/11

帯紐を固く夏の喪服 7/11

目玉で繋がったまま炎天 7/11

雷にモデムの黒こげ 7/11

弁天さまに良く似た女にモデルを頼む 7/10

ヤマギワ全焼をパチリ 7/10

絹を裂いても聞こえぬ女の悲鳴 7/10

中元も出せない小さな家計 7/9

ラララ橋の向こうには君 7/9

もう次が無いかも負け犬にはならじ(焦) 7/9

Yes NO 迫られる外国暮らし 7/9

黄色いダイヤモンドよりカニ味噌 7/8

皿の枚数を数えてはドロロロン 7/8

鼻水で外す鼻ピアス 7/8

クサマヤヨイの水玉が迫ってくる 7/8

炎天のお坊さんに百円 7/7

ひっくり返った下駄をまたぐ 7/7

メトロポリタンでナポリタン 7/7

星型の短冊に願い事を集める東京メトロ 7/7

ハトがハートマーク 7/7

あぜ道の石ハート型 7/7

タニシを取って自慢する都会っ子 7/7

火の玉を見た背筋 7/6

ヒューと出てきた墓の後ろ 7/6

草の根で染めたやはらかな色を着る 7/6

根を残してちぎれおる一番抜きたい草 7/6

鶴の置物作るポケずにいる 7/5

山吹色の折鶴が掌 7/5

オリーブの浮気性には呆れ果て 7/5

白兎様の毛がフカリ 7/4

新しい猫はキジ模様 7/4

繁盛招く猫が笑う 7/4

デジカメプリンタがポコリと言い一枚 7/4

兎がついた餅にきんいろの粉 7/3

よく血を吸う蚊のてのひら7/2

まぶたの出来具合写してみる 7/2

青く光る山並みの息を吸う7/2

真っ直ぐな道空に溶けゆく7/2

道なき道もいつしか道となり 7/1

下町のなさにじんわり 7/1

催促された連れ句にちよろり 6/29



その他の掲示板なんかで詠んだ俳句

片隅に追いやられても人生 2004/3/13

強い面子とビー玉取替えのり 2004/3/12

秘密基地を掘ってドロップ缶 2004/3/11

春の人とかろやかに 2004/3/10

鳥渡るふるさとの雪 2003/11/24

窓を5センチおひさまと相談 2003/11/24

縄のれん揺れて女将のチラリズム 2003/11/23

あさひとじこめたあさつゆがねばってらる 2003/11/24

夕暮れた生き残り 2004/11/22

缶コーヒー二人で 2004/11/22

ドア開くボタン押す雪電車 2004/11/22

甘い父を吸い尽くす 2004/12/24

おわりに

お読みになったんっすか？アタナも暇な方ですねえ。こんな駄句なんて読んでないで、自分の俳句でも作ったらどうっすかね？たは。読んで頂いて、ありがとうございました。

今回、句集にまとめてみて思ったことは、長い句は、一行からはみ出るってことですね。

「俳句は意識して短く作る」これは、句集を作るとき、はみ出ないで便利だなと思います。

頑張つて、もう少し短くしよう。みたいな。

ぼんやりしていると、いつも長くなってしまいます。

編集のテクニク的な話になると、俳句と名前の間にスペースが入っていると、ソートするときには便利だとか、スペースが入りすぎていると、ソートするときには俳句が壊れてしまうということが解りました。俳句は、極力区切らずに作る。

また、句集は縦書きになりますので、数字などは、漢数字で作っておく。ローマ字は大文字でというルールを作っておくと、編集するときにラクちんです。

毎日三句から六句作っているのですが、二千句もあると、似た俳句があることに気が付きます。これは、俳句ノートなので、記録しておくのはかまわな
いと思います。時期がズレても、自分の価値観
というのはあまり変化がありませんので、また作っ
てしまうこともあるでしょう。

それをどうやって整理するのかという問題も残
ります。

あとは、人の俳句に似ているのをどうするのかと
か、どう考えても俳句じゃないというのをどこまで
削るのかという作業です。今回は何もしてません。

連れ句ですから、個人的なやりとりのなかに、前
後の流れがあり、話題になった話なんか、自分の
句にも盛り込まれて残ってゆくわけです。

ミモザの白いコートでやってきた美人ライター 03/12

という文などは、今のままでは、俳句ともいえま
せんが、本当に彼女はあとりにえにやってきたわけで、
その思い出は一瞬にして脳裏に舞い戻ります。

この句を句集から落としてしまうと、彼女のこと
は、この一年の出来事で、思い出せなくなっていま

うのです。少し推敲するか、どうしようもないので、前置きとして、別な句を足すかもしれませんが。どちらにしても、関連の作品を句集には入れるということになると思います。そういうことを思い出すためにも、記録として残しているということなのです。

俳句というのは、生活の中に溶け込んだ自然な表現であり、出来不出来の他に、本人との関わりとか、その出来事の重大性などとともに、選別されるべきだと思います。

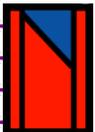
それは、先達（放哉や、山頭火）の句集の中にも見られます。

自選の句集だからこそ、駄句と思える表現の句でも、自分にどんな転機があったのかを伝えるために、句集に残すべきではないか。

今は、そんな風に考え、句集作りに取り組んでいきます。

多くの方の句集出版の夢が叶いますように。

おじやら・ねっとの本



電子俳句ノート

『歳時記ひらく』ともなくまた一年』

ネット配信版 フリー

CD-ROM版 ¥700

発行 二〇〇五年四月

俳句と文 おじやら りか

発行者 小山田 理花

発行所 あとりえ おじやら

〒110-0024

東京都足立区千住5-26-10

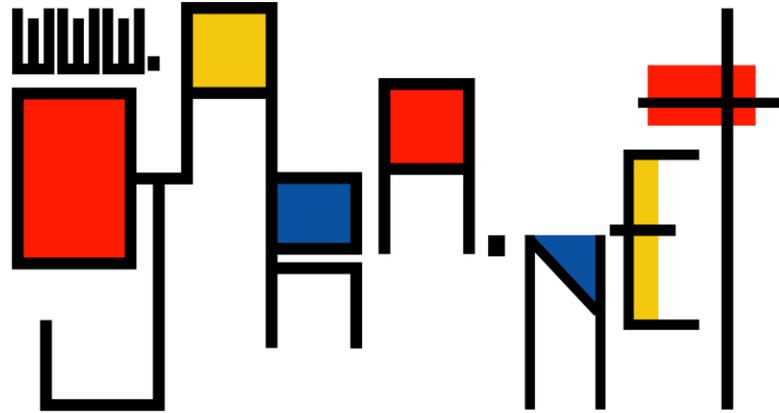
E-Mail:rica@ojara.net

<http://www.ojara.net>

ISBN4-901941-18-6 C-0871¥0700E

© おじやら りか

お気づきの個所がございましたら、ご面倒様でも、E-mailにてお知らせください。
よろしくお願い致します。



おじら.ねっと www.ojara.net
[mail:rica@ojara.net](mailto:rica@ojara.net)

ISBN4-901941-18-6 C0892 ¥0700E